



# 取扱説明書



ブームマスターZ

BMZ100DX

BMZ200DX



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると事故を引き起こす恐れがあります。

ご使用前に必ずお読みください。お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔


# 目次

はじめに .....	1
保証とサービスについて.....	9
保証書について.....	9
アフターサービスについて .....	9
補修用部品の供給年限について.....	9
各部の名称 .....	10
商品を受け取ったら.....	11
組立について .....	12
スタンドの装着・取扱方法 .....	14
装着前の準備 .....	15
ユニバーサルジョイントの確認.....	16
リモコンの取付けと調整.....	17
トラクタへの装着順序 .....	19
1. 日農工 標準オートヒッチの場合 .....	19
2. 標準3点直装使用の場合 .....	24
アタッチメントの装着.....	27
1. アタッチの装着方法 .....	27
2. アタッチの取り外し方.....	29
作業前の点検 .....	29
無線コントローラ(e-ウェーブ)について.....	29
1. リモコン電源と無線チャンネル自動選局機能について.....	30
2. リモコンの操作方法.....	33
各機能について.....	37
1. フローティング機能・機構.....	37
2. 安全機能・機構(ガードマスターZ) .....	39
3. 機体の保護機能(トリプルセーフティーマスターZ).....	40
運転及び作業について .....	43
1. 運転・操作の練習 .....	43
2. 移動と圃場への出入りの仕方 .....	43
3. 作業のしかた .....	43
4. 作業上の注意点まとめ.....	45
オイルクーラについて .....	47
保管時の移動・運搬について.....	47
保守管理について.....	48
トラブルの原因と処置方法 .....	3
主要諸元.....	4
トラクタマッチング表 <BMZ100DX> .....	5
トラクタマッチング表 <BMZ200DX> .....	7

# ササキ商品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- ◎ この取扱説明書は、ブームマスターZの取扱方法と、使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟読するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、常に最良の状態でお使いください。
- ◎ このブームマスターZは、目的に応じた専用アタッチメントを装着して使用するための機械です。その他の目的での使用や、専用アタッチメントでないものの装着はしないでください。
- ◎ アタッチメントを装着して使用する機械となっておりますので、アタッチメントに付属している取扱説明書もあわせて熟読し、正しくお取り扱いください。
- ◎ お読みになった後は、必ず商品に近接して保管してください。
- ◎ 本製品を貸与または譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡してください。
- ◎ この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社あるいは当社の特約店・販売店にご注文ください。
- ◎ なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本商品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ◎ ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、または、お近くの特約店・販売店・JAIにご相談ください。
- ◎  印付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



**危険**

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。



**警告**

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。



**注意**

この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。

**重要**


注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものをあらわします。

**参考**

その他、使用上役にたつ補足説明をあらわします。

- ◎ この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「**安全に作業をするために**」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

## 安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、ご理解いただいたうえで安全な作業をおこなってください。安全に作業をするために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

### ◎一般的な注意事項

#### 警告 こんな時は作業しない

- ◇過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ◇酒を飲んだとき。
- ◇妊娠しているとき。
- ◇18歳未満の人。



#### 警告 作業に適した服装をする

- ◇ はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。  
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりするおそれがあります。

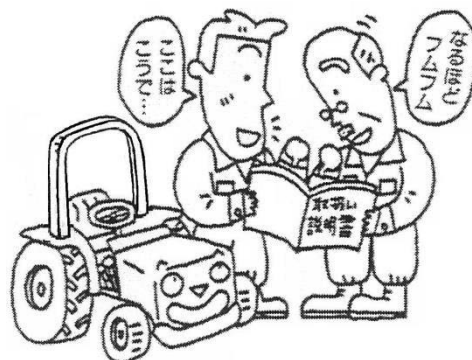


#### 警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

- ◇ 取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の損傷をまねくおそれがあります。



## ⚠ 注意 機械の改造禁止

- ◇ 純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。



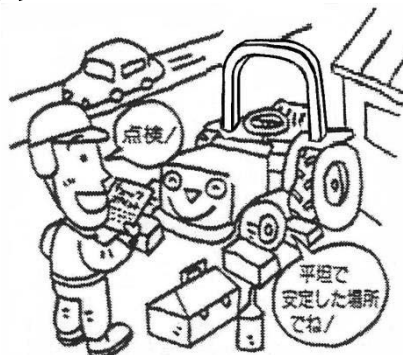
## ◎作業の前に

### ⚠ 警告 始業点検整備は平坦で安定した場所で行う

- ◇ 交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、トラクタの前輪には車止めをして点検整備してください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

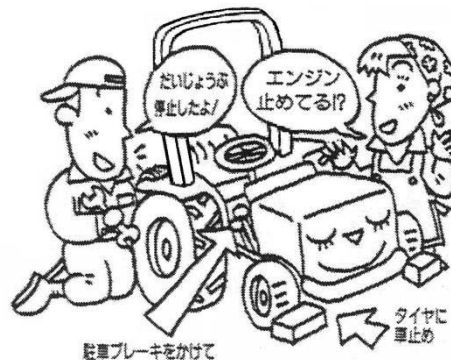


### ⚠ 警告 点検整備中はエンジンを停止する

- ◇ 点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故を起こすおそれがあります。



## ⚠ 注意

- ◇ 作業の前には、点検・整備をおこなってください。
- ◇ 各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。
- ◇ カバー類を外したら、必ず取り付けてください。

## ◎アタッチの着脱および、トラクタへの着脱

### ⚠ 危険 運転時はジョイントカバーを外さない

- ◇ 運転時はユニバーサルジョイントのカバーを外さないでください。

#### 【守らないと】

ユニバーサルジョイントに巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。



### ⚠ 警告 着脱は平坦な場所で行なう

- ◇ アタッチ・作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をつけてください。

#### 【守らないと】

事故を起こすおそれがあります。



### ⚠ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

- ◇ 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

#### 【守らないと】

何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。



### ⚠ 警告 重い作業機をつけるときはウェイトでバランスを取る

- ◇ 重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウェイトをつけてバランスを保ってください。

#### 【守らないと】

バランスを崩して事故を引き起こすおそれがあります。



## 注意

- ◇ トラクタから離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、PTO変速を中立にしてください。
- ◇ 2人以上で作業をおこなう場合は、互いに合図・確認をしあって作業してください。
- ◇ ユニバーサルジョイントの止めピンが、確実に軸の溝にはまっているか確認してください。
- ◇ 取り付け部のピンが、すべて確実に装着されているか確認してください。

## ◎路上走行

### 注意 トラクタに作業機を装着した状態での公道走行時は法令を遵守する

- ◇ トラクタに作業機を装着した状態で公道を走行する場合は、下記の法令を遵守する必要があります。  
【道路運送車両法】 保安基準として、灯火装置や反射器、制限標識などを 必要に応じて取り付け。  
【道路交通安全法】 免許区分に応じた運転免許証の携帯。  
【道路法】 一定の大きさや重量を超える場合は、特殊車両通行許可の申請。  
※ 詳細は農林水産省や日本農業機械工業会のHPをご覧ください、販売店にお問い合わせください。  
【守らないと】 法令違反です。交通事故を引き起こすおそれがあります。

## 注意

- ◇ トラクタに運転者以外の人を乗せないでください。
- ◇ 作業機には乗らないでください。
- ◇ 作業機のPTO回転を止めてから走行してください。
- ◇ トラクタの落下速度調整ハンドルを回して、必ず油圧ロックをしてください。
- ◇ 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。
- ◇ 作業機を装着した時、機体寸法が大きくなるので、走行時は十分注意してください。
- ◇ 溝のある農道や、両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意して移動してください。

## ◎圃場への出入り

### 注意

- ◇ 圃場に入るときは必ず前進で速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。
- ◇ 圃場から出るときも同様に速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。
- ◇ 急な坂などでは無理をせず、後退して圃場から出てください。

【守らないと】

畦や段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒するおそれがあります。

畦や段差に対して作業機を下側にすると、転倒するおそれがあります。

## ◎作業をしているとき

### ⚠ 警告 回転部(ツメ・刃、軸等)に巻き付いた草等を取るときはエンジン停止

- ◇ 回転部(ツメ・刃、軸等)に巻き付いた草等を取るときは、トラクタのエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



### ⚠ 警告 子供を近づけない

- ◇ 子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



### ⚠ 警告 トラクタと作業機の周辺に人を近づけない

- ◇ トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



### ⚠ 警告 作業機指定のPTO回転を守る

- ◇ 低速回転用の作業機を、高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。





## ⚠ 注意

- ◇ 補助作業者がいる場合は、お互いに動作ごとに合図をかわしてください。
- ◇ 回転部分や動くところには触れないでください。

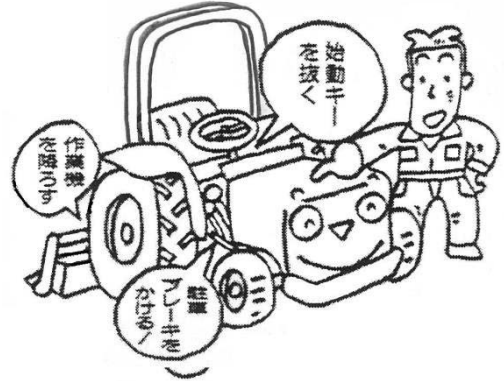
## ◎トラクタを駐停車するとき

### ⚠ 警告 機械から離れるときは作業機を地面に降ろしてエンジンをとめる

- ◇ 機械から離れるときには平坦で安定した場所に置き、昇降レバーで作業機を下げて、エンジンをとめて始動キーを抜き必ず駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



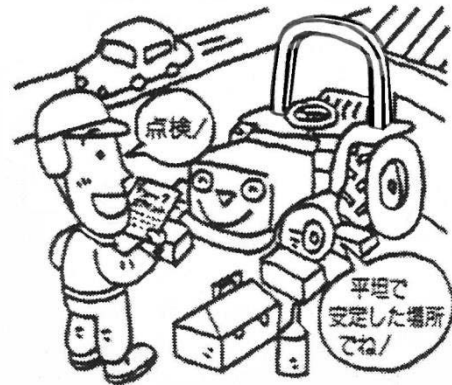
## ◎点検や格納のとき

### ⚠ 警告 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

機械を点検・整備・格納をするときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて必ず駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



## ⚠ 注意

- ◇ 点検・整備時は、トラクタのエンジンを止めてください。
- ◇ 機械の下にもぐったり、下で作業したりしないでください。
- ◇ キャスターなどが付いている場合は、車止めをして作業してください。

# 安全銘板の貼り付け位置



0000-02010  
PL ラベル(ケイコク・ヒサブツ)



S26-413100-0  
ラベル(ヤケト)



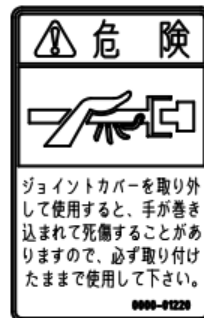
0000-02630  
PL ラベル(ケイコク・サギョウ)



S26-413100-0 ラベル(ヤケト)



0000-04310 PL ラベル(オフセットモア)



0000-01220  
PL ラベル(キケンジョイント)

## 注意

- ◇ 安全銘板が破損したりはがれたりした場合は、上記番号・名称にて手配のうえ、貼り直してください。
- ◇ 新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全に拭き取り、貼付面を十分に乾かしてから元の位置に貼ってください。

## 保証とサービスについて

### 保証書について

『保証書』は、お客様が保証修理を受けられる際、必要となるものです。  
お読みになった後は、大切に保管してください。

### アフターサービスについて

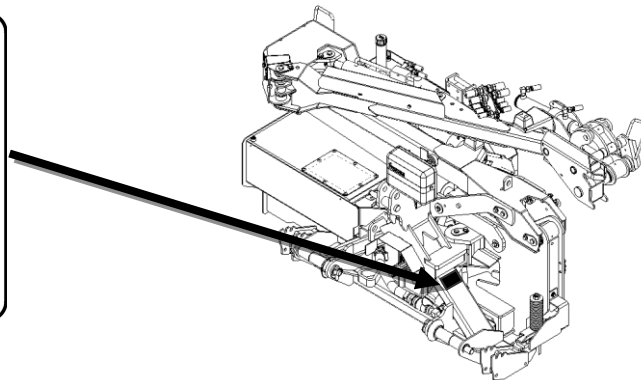
ご使用中の故障やご不審な点など不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店等にご相談ください。

#### 《ご連絡いただきたい内容》

- ◇ 型式名（機体銘板に明記してあります）
- ◇ シリアル番号（機体銘板に明記してあります）
- ◇ ご使用状況は？  
（どのような作業をしていたときに？）
- ◇ どのくらい使用しましたか？  
（約何アール又は約何時間使用）
- ◇ 不具合が発生したときの状況を出来るだけ詳しくおしらせください。

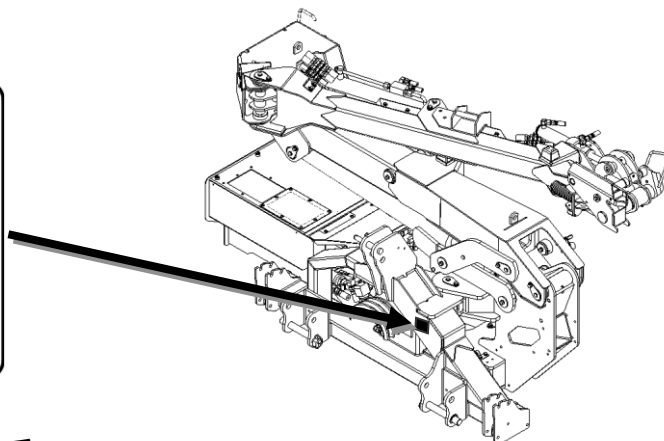
#### 【BMZ100DX の機体銘板貼り付け位置】

農業機械の種類	ブーム作業機
型式名	BMZ100DX
区分	
シリアル番号	SS*****
	
株式会社 <b>サザキコーポレーション</b> 青森県十和田市里ノ沢1番地259 MADE IN JAPAN	



#### 【BMZ200DX の機体銘板貼り付け位置】

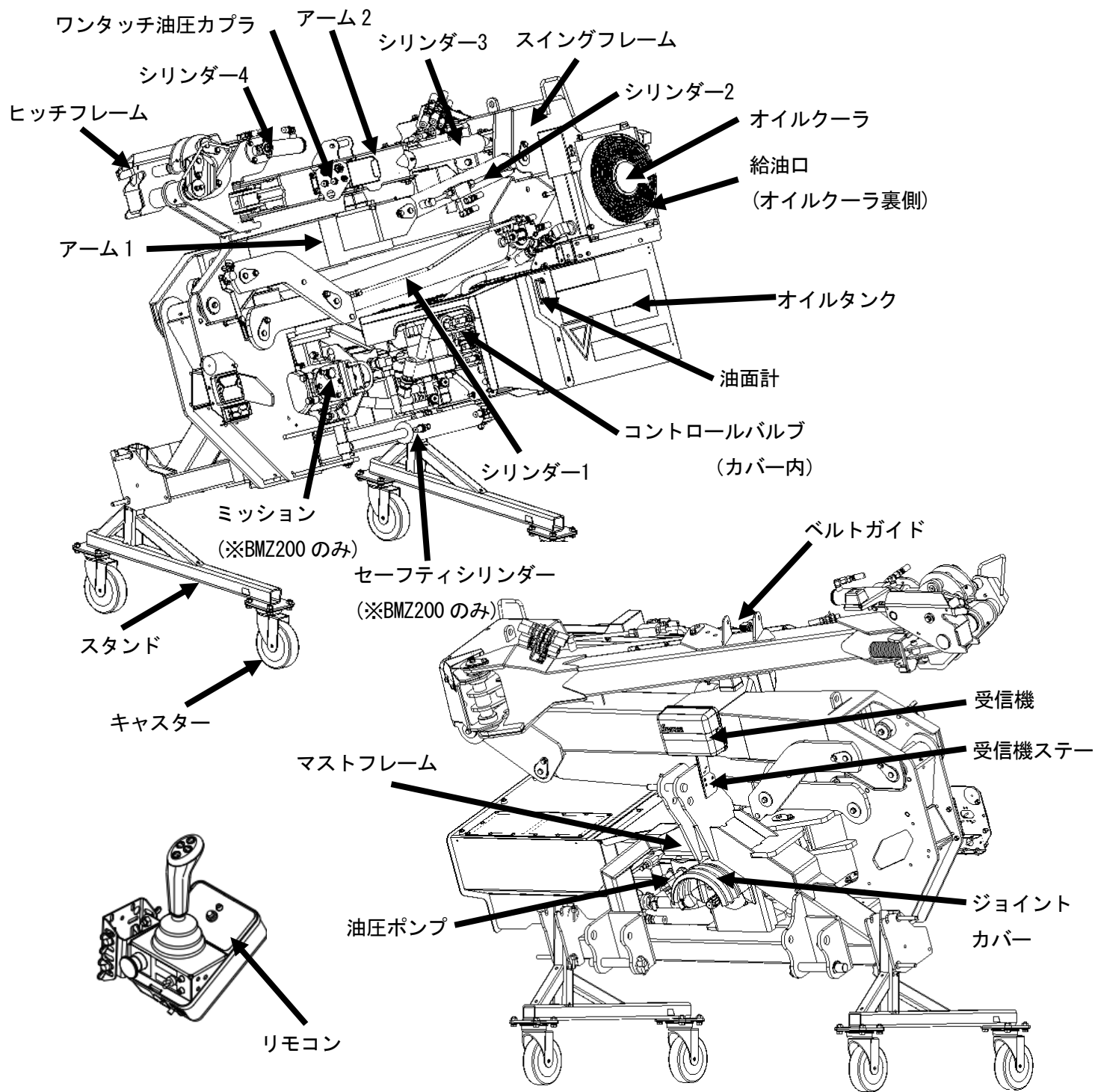
農業機械の種類	ブーム作業機
型式名	BMZ200DX
区分	
シリアル番号	SS*****
	
株式会社 <b>サザキコーポレーション</b> 青森県十和田市里ノ沢1番地259 MADE IN JAPAN	



### 補修用部品の供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限は、製造打ち切り後 9 年です。  
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

# 各部の名称



## 付属品

名 称	規 格	個数	備 考
リモコン		1	リピートタイ、Uボルト付属
ハーネス (デンゲン)		1	
ハーネス (ジョイント)		1	
ハーネス (スイッチ)		1	
保証書・取扱説明書		各1	
オートヒッチ		1	3S・4S または 3L・4L の場合
ユニバーサルジョイント	#50-N500	1	BMZ100 標準3P直装型式の場合
	#105-N450	1	BMZ200 標準3P直装型式の場合

## 商品を受け取ったら

この作業機は、トラクタ後部の3点リンクに装着し使用する機械です。

作業機を装着した状態で、公道を走行できます。

トラクタの運転で公道を走行する際には、運転免許が必要になります。運転者は免許を所持しているか確認の上、ご使用をお願いします。

また、開梱する際に使用するクレーンは、特別講習を受けた運転士資格が必要になります。

以下の項目を確認の上、安全な作業で行ってください。

### <資格・免許>

分類	分類	資格	運転時
小型特殊自動車	トラクタに装着して、全幅 1.7m、全高 2.0m、全長 4.7m、速度 15 km/h 未満の全てが超えない。	運転免許	公道走行時
大型特殊自動車	小型特殊の分類の1つでも超えるものがある場合。	運転免許	
小型移動式クレーン	吊上荷重 0.5~1t 未満	特別教育	開梱の作業時など
クレーン	吊上荷重 0.5~5t 未満	特別教育	
玉掛	吊上荷重 0.5~1t 未満	特別教育	

### <機体諸元>

型式	全幅 (mm)	全高 (mm)	全長 (mm)	重量 (kg)	
				4S/3S(4L/3L)	3P 直装
BMZ100DX	1600	870	1050	530 (540)	500
BMZ100DX-MF09	1810	1120	1050	610 (620)	580
型式	全幅 (mm)	全高 (mm)	全長 (mm)	重量 (kg)	
				4L/3L	3P 直装
BMZ200DX	1980	1140	1200	775	730
BMZ200DX-MF10	2250	1420	1200	880	835

※装着するトラクタとセットで確認をお願いいたします。

※上記以外に、道路交通法の保安基準に適合しているか、公道走行ガイドブックを参照し確認をお願いします。

### ⚠ 警告

- 組立場所は平坦で十分な広さがあり、地盤がしっかりした場所で行ってください。守らないと、機械が倒れ挟まり死傷事故を起こす恐れがあります。
- 吊り上げた機械の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。落下して死傷事故を起こす恐れがあります。近寄る時は、落下の危険を考慮して逃げ場所を確保してください。事故を起こす恐れがあります。

### ⚠ 注意

- 梱包を解体する時は、手、足、頭等をケガしないように注意してください。
- 2人以上で作業する時は、お互いに合図を志、確認しあって作業してください。守らないと、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

## 組立について

本機は、ほとんど組み上がった状態で出荷されます。梱包枠から外す際は、以下の手順を守って作業してください。

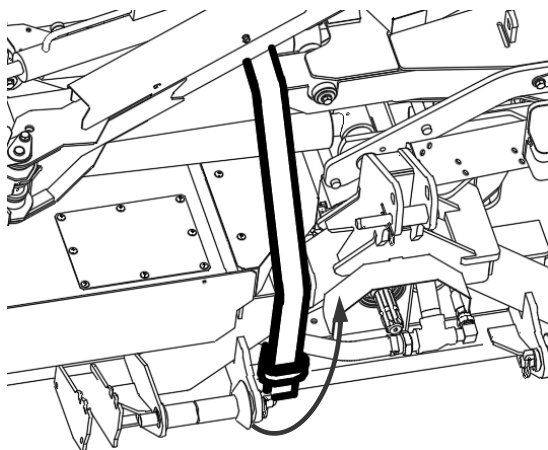
### 1. BMZ100 の場合

#### 重要

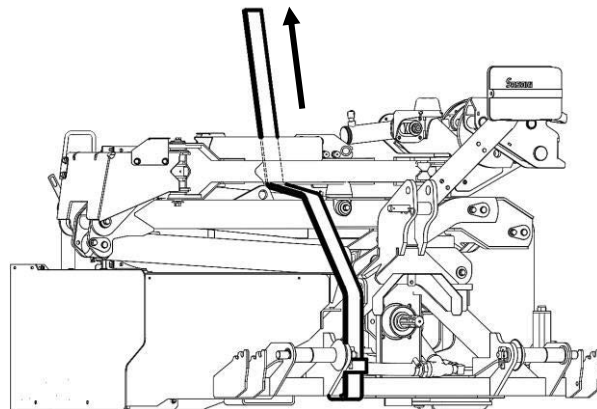
- クレーン等で吊り上げるには資格が必要です。クレーンおよび、玉掛けの資格を所持している作業員が行ってください。(前頁参照)
- 使用するベルトスリングは、規定の物を使用してください。(耐荷重1t以上、長さ1.5m以上)
- アームのみにベルトスリングを掛けて吊り上げないでください。吊り上げ中にアームが開き、思わぬ事故や破損につながる恐れがあります。
- ベルトを巻きつける際は、油圧ホースを巻き込まないように注意してください。ホースが損傷する恐れがあります。
- トラックの荷台に載せて移動する場合は、荷台上で動かないよう、スタンドからキャスターを外してください。
- 装着アタッチごとに重量・バランスが変化しますので、補助のベルトを使用して姿勢を調整してください。

1-1. 天井クレーンもしくは、移動式クレーン(トラックのクレーン等)を準備します。

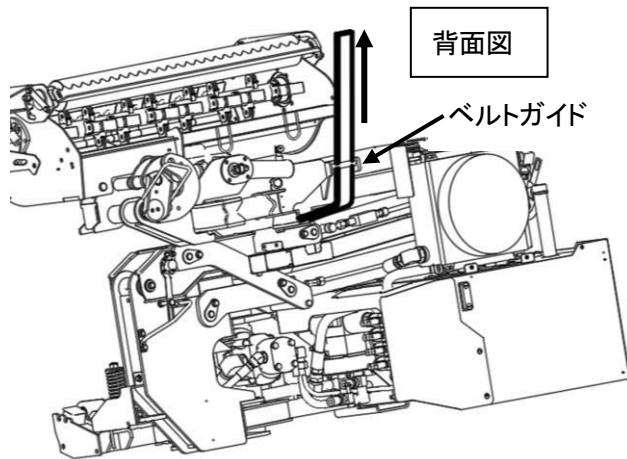
1-2. マストフレームのロウパイプ部に、ベルトを目通しにして、前方に出します。



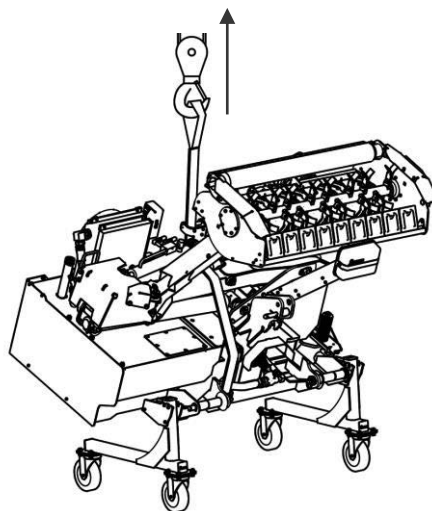
1-3. アーム1とアーム2の間にベルトを通して、後方に出します。



1-4. アーム2の背面にあるベルトガイドにベルトを通し、上へ出します。



1-5. クレーンでゆっくりと吊り上げます。スタンドが装着できる高さ、地面から約50cmまで上げます。



1-6. スタンドを装着します。スタンドの装着の仕方は**スタンドの装着・取扱方法**を参照します。

1-7. クレーンをゆっくりと下げて地面に接地させます。スタンドキャスター4輪が全て接地するまで、確認します。接地したら、キャスターのストッパーをロックし、機体が動かないようにしてください。

1-8. 機体が安定したら、クレーンフックを外し、ベルトスリングを機体から外します。突起部がありますので、注意しながら作業します。

## 2. BMZ200DXの場合

### 重要

- クレーン等で吊り上げるには資格が必要です。クレーンおよび、玉掛けの資格を所持している作業員が行ってください。(前頁参照)
- 使用するベルトスリングは、規定の物を使用してください。(耐荷重1t以上、長さ2.5m以上)
- アームのみにベルトスリングを掛けて吊り上げないでください。吊り上げ中にアームが開き、思わぬ事故や破損につながる恐れがあります。
- ベルトを巻きつける際は、油圧ホースを巻き込まないように注意してください。ホースが損傷する恐れがあります。
- トラックの荷台に載せて移動する場合は、荷台上で動かないよう、スタンドからキャスターを外してください。
- 装着アタッチごとに重量・バランスが変化しますので、補助のベルトを使用して姿勢を調整してください。

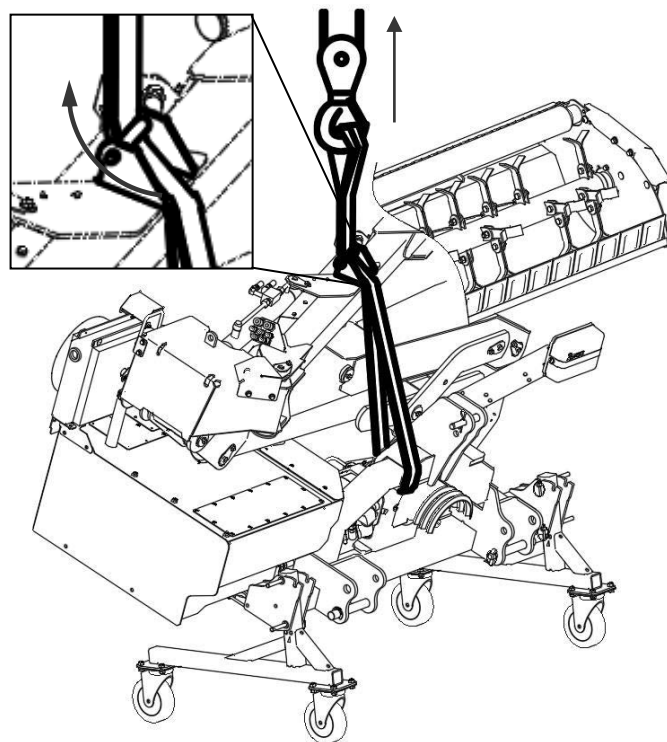
2-1. 天井クレーンか移動式クレーン(トラックのクレーン等)を準備します。

2-2. マストフレームの右側パイプ部分を、跨ぐようにベルトスリングを掛け、上方に出します。

2-3. アーム2の前面側を通り、アーム2の上面にあるベルトガイドにベルトスリングを通して上方に出します。

2-4. クレーンでゆっくりと吊り上げます。スタンドが装着できる高さ、地面から約50cmまで上げます。

2-5. 前頁のBMZ100DXと同様に、スタンドを組み付け着地させます。(前頁参照)



## スタンドの装着・取扱方法

### 警告

- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。  
【守らないと】作業機が動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に入らないでください。  
【守らないと】挟まれて死傷する恐れがあります。
- 取付作業する時は、平坦で固い場所でエンジンを停止してからおこなってください。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

### 重要

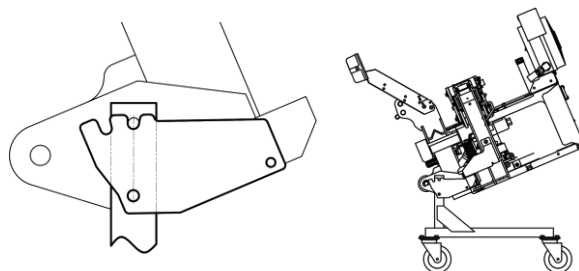
- 作業時は必ずスタンドを取り外して作業してください。また、スタンド装着した際は、必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
- 本機には装着方式に合わせて、スタンドの装着位置が2種類あります。装着方式を確認し適切な装着位置にスタンドを装着してください。

#### 1. 取り付け方法

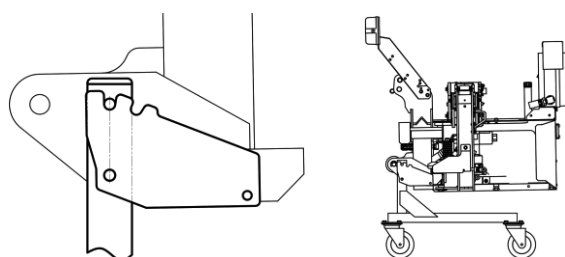
スタンドはマストフレームの左右にあるスタンドブラケットへ装着します。

- 1-1. スタンドのピンをスタンドブラケットの上溝へ引っ掛けます。本機には装着方式に合わせて、スタンドの装着位置が2種類あります。装着方式を確認し、適切な位置にスタンドを装着してください。

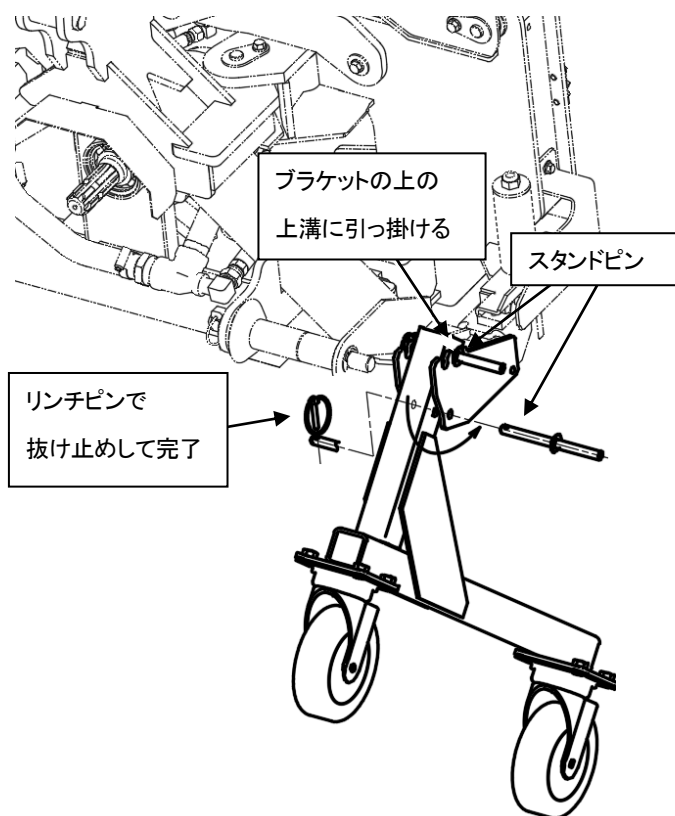
- ・JIS(日農工)標準オートヒッチ装着の場合  
スタンドブラケットの上溝は後ろ側を使用します。  
(フレームが前傾になる位置)



- ・標準3点直装の場合  
スタンドブラケットの上溝は前側を使用します。  
(フレームが垂直になる位置)



- 1-2. スタンドに手を添えて、スタンドブラケットの下穴とスタンドの下穴を合わせ、ピンを挿入します。挿入後、リンチピンで抜け止めしてください。





## 装着前の準備

### 警告

- 適応トラクタの範囲内で使用してください。適応範囲以内のトラクタであっても、発進時・登坂時に、トラクタの前輪が浮き上がる場合には、必ずフロントウェイト等を取り付けてください。

【守らないと】 転倒や横転等の事故で死傷するおそれがあります。

- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。

【守らないと】 作業機が動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。

【守らないと】 挟まれて死傷するおそれがあります。

### 注意

- 作業中にボルト・ナット・ピン等が外れると、作業機の破損ばかりか、トラクタの破損や人身事故につながるおそれがあります。

### 重要

- 本機は、トラクタ装着時の重量バランスが大変重要です。使用トラクタの重量を確認の上、フロントウェイトおよび、右後輪へのホイールウエイトを十分に装着してください。また、トラクタのトレッド幅も極力幅広くしてください。
- 装着方式(0S, 0L, 直装)によっても前後バランス条件が異なります。装着バランス及び、適応情報の詳細については、販売店又はメーカーまでお問い合わせください。

### ・BMZ100DXの場合

適応トラクタ馬力：	35～70 (PS)
適応トラクタ重量：	1800kg以上
後輪トレッド幅：	1300mm以上

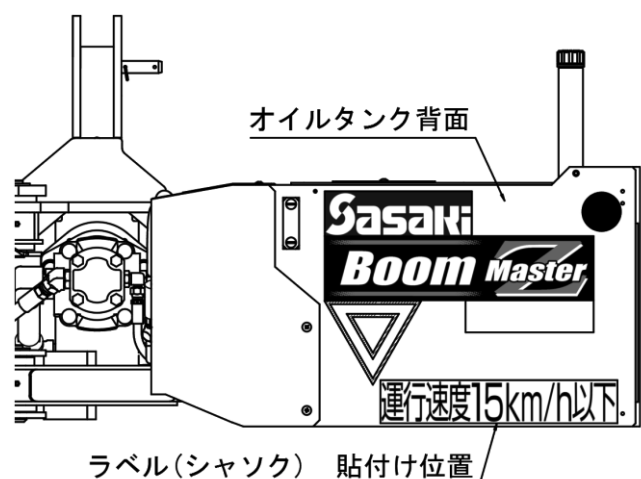
### ・BMZ200DXの場合

適応トラクタ馬力：	75～135 (PS)
適応トラクタ重量：	2500kg以上
後輪トレッド幅：	1500mm以上

1. 各部のボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落がないか確認してください。ある場合には、増し締め、組み付けをおこなってください。
2. 作業機を装着すると機体の長さ・幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認のうえ、適宜フロントウェイト等を取り付けてください。
3. 電装品の配線をおこないません。本機は、リモコンにより操作を行います。  
**リモコンの取り付けと調整**を参照し、配線してください。

4. 本機を装着することで、時速15km/h以下での走行に制限される場合は、運行速度の表示が必要となります。オイルタンク背面に、付属のラベル(シャソク)を貼り付けてください。

※詳細は農林水産省や日本農業機械工業会のHPをご覧ください。販売店にお問い合わせください。



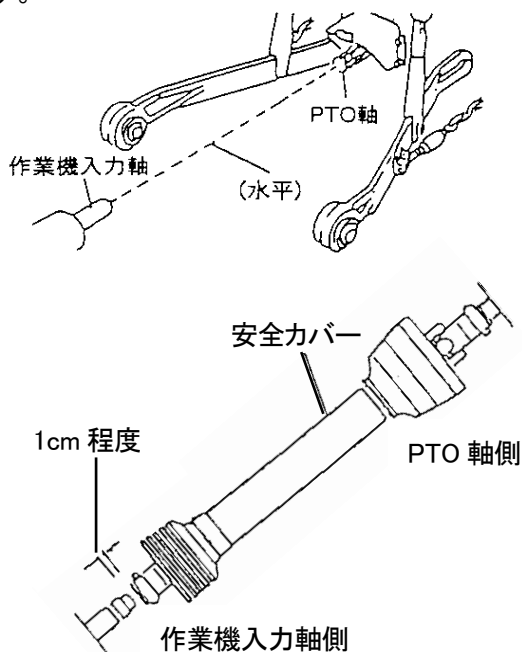
# ユニバーサルジョイントの確認

## 重要

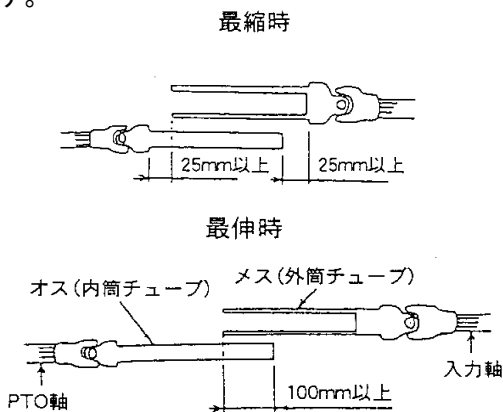
- ユニバーサルジョイント(以下ジョイント)の長さは、必ず適正な長さの範囲内で使用してください。短すぎるとジョイントが抜け、思わぬ事故につながります。長すぎると機械を破損してしまいます。短い場合は交換し、長い場合は切断して使用してください。

### 1. 適正長さの確認

トラクタのPTO軸と作業機の入力軸が、水平で一直線上にある時が、ジョイントが一番短くなる時です。このときに1cm程度のスキマがあればそのまま使用できます。

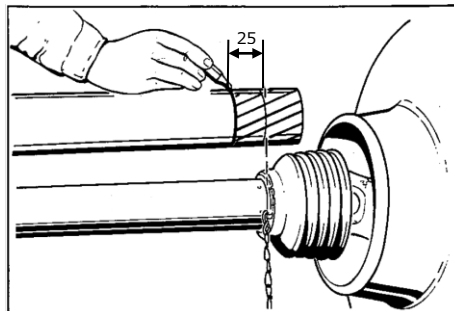


また、ジョイントのオス・メスを外して、それぞれPTO軸と入力軸に取り付け、水平で一直線上にあたる時(最縮時)に、下図のスキマが25mm以上あり、作業機を上下させてジョイントが最も伸びた時(最伸時)に、オス・メスの重なりが100mm以上あると、適正長さの範囲です。

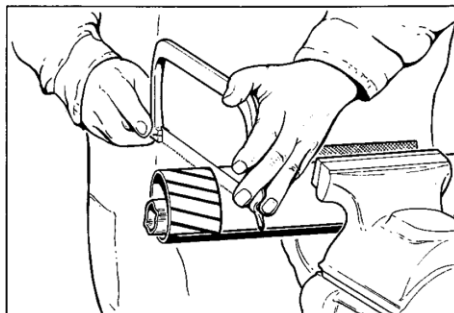


### 2. 切断方法

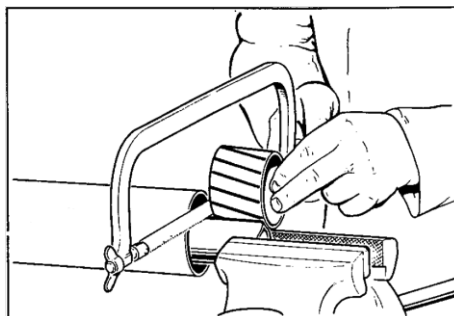
- 2-1. ジョイントのオス・メスを外して、トラクタと作業機の最短の作業位置に合わせ、相手側の安全カバーの筒の端から、25mm程度のスキマがあく位置に、オス・メスの安全カバーへそれぞれ、マークをつけてください。



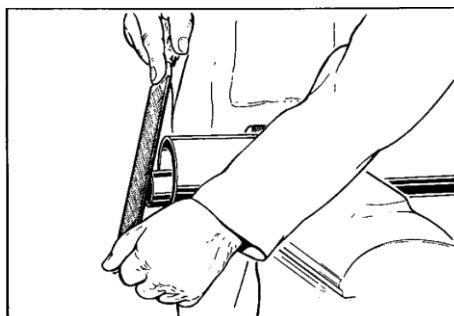
- 2-2. オス・メスの安全カバーに、マークをした長さだけ、安全カバーを切断してください。



- 2-3. オス・メスの内外筒チューブを、安全カバーを切断した部分と、同じ長さだけ切断してください。



- 2-4. 切断後は切り口にヤスリをかけ、バリを除きスムーズにスライドできるようにしてください。



## リモコンの取付けと調整

### 警告

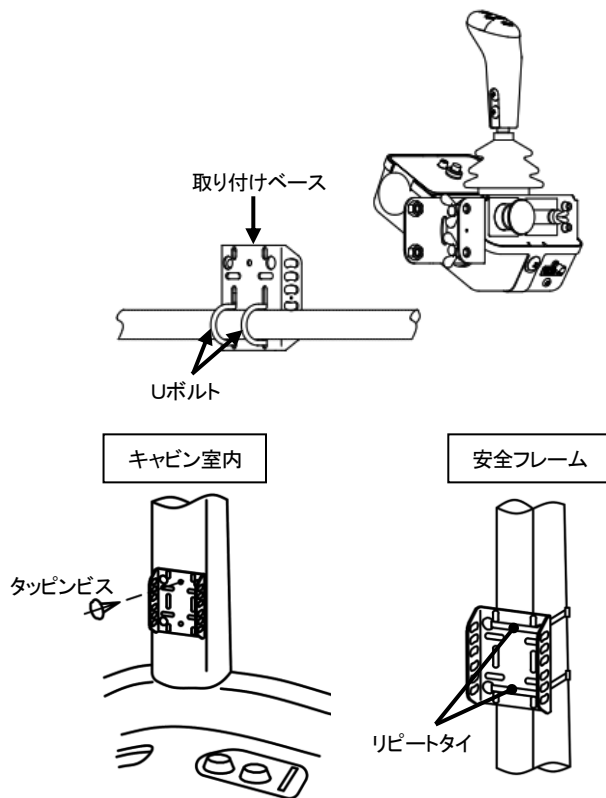
- リモコンは、必ずトラクタの運転操作に支障のない安定した場所に設置してください。  
【守らないと】トラクタや作業機が誤動作し、死傷事故を起こすおそれがあります。
- マフラーなどの高温部の近くにハーネスを固定しないでください。  
【守らないと】熱で溶けて発火や、感電等のおそれがあります。また、トラクタや作業機が意図せず動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- ゴムグロメットを外して通すと、コードに傷がつき、断線などの思わぬ事故を起こす恐れがあります。

### 重要

- 本製品の作動電源はバッテリーDC12Vです。その他の電源に接続すると破損の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- バッテリーの ⊕ と ⊖ を必ず確認してから接続してください。誤って接続すると電子部品の故障の原因になりますので注意してください。
- 取り付け位置付近に、安全銘板が貼られている場合は、隠れないように取り付けてください
- リモコンは、リモコン本体と取り付けベースに分かれています。必ず、リモコン本体を仮合わせして、トラクタ運転操作に支障のない位置に設置してください。
- リモコンの固定後は、レバーを前後左右に操作し確実に固定されていることを確認してください。

### 1. 取り付け方法

1-1. 取り付けベースを、運転席の操作の邪魔にならない位置へ取り付けます。トラクタがキャビン仕様の場合は、ピラー樹脂カバーにタッピングビスで固定するか、手すり等のフレーム類に付属のUボルトで取り付けベースを固定してください。安全フレーム仕様の場合は、フレームパイプなどに設置してください。



### 参考

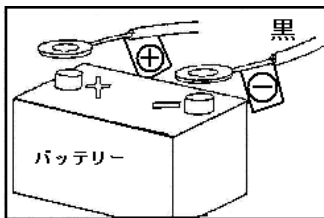
- キャビン仕様や安全フレーム仕様は、付属のタッピングビスやリピータイなどを活用して、しっかりと固定してください。安全フレームのないトラクタや、適当な設置場所が得られない場合は、ホームセンターなどで市販の固定金具をお買い求めいただき、取付けてください。

1-2. リモコン本体を取り付けベースへ取付けてください。取り付けベースの長穴にて操作しやすい位置に調整し、リモコン本体を固定してください。

## 2. 電源ハーネスの接続方法

電装品の配線をします。

2-1. 電源ハーネスをトラクタのバッテリーへ接続してください。一度、バッテリーからトラクタのコードを外します。外す際は、⊖側から外し、その後⊕側を外してください。次に、電源ハーネスの⊕と表示されている線をバッテリーの⊕側へ接続し、最後に、⊖と表示されている線をバッテリーの⊖側へトラクタのコードと一緒に接続してください。バッテリーは大抵の場合、トラクタの前方にあります。



### 参考

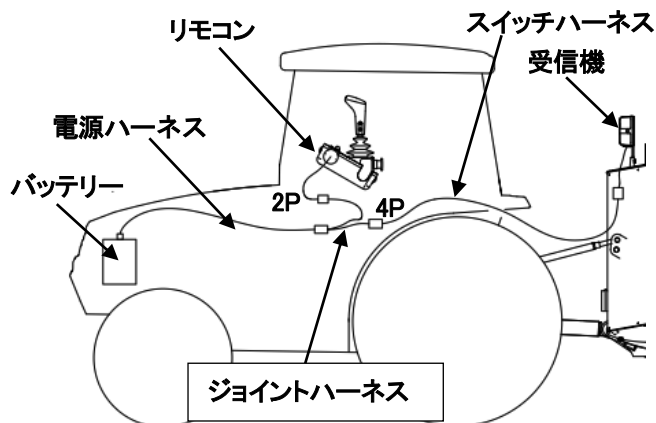
- バッテリー電圧が不足していると動作しない場合があります。電圧が不足している場合は充電してください。

2-2. リモコンに電源線を接続します。

トラクタのバッテリーに、付属の電源ハーネス、ジョイントハーネスを接続し、リモコンと受信機へ接続してください。

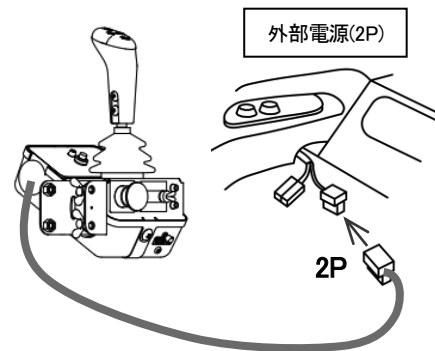
・外部電源が無い場合

電源ハーネスに、ジョイントハーネスを接続して分岐し、2P側へリモコンを、4P側へスイッチハーネスを接続してください。



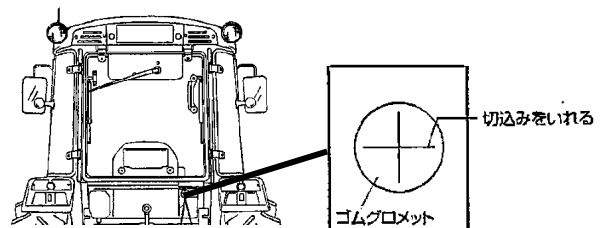
・外部電源が有る場合

リモコンの電源線は、ジョイントハーネスを使用せず、トラクタの外部電源(2P)に接続してください。



2-3. 電源線の本機へ接続するため、トラクタキャビン内から本機側へハーネスを引き出します。

キャビン後方のゴムグロメットにカッターナイフで切り込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットに通してください。



2-4. 本機への電源ハーネスは、トラクタへ本機を装着してから、接続してください。配線は、本機を3点リンクで上げ下げしても余裕があり、ジョイントやタイヤ等に接触しないようにしてください。

## トラクタへの装着順序

### 警告

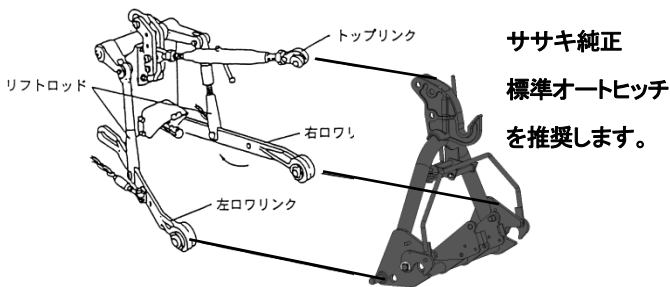
- 装着作業する時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図あって、注意して作業してください。
- 装着は、作業機がオフセットしている位置で行わず、必ず格納位置でおこなってください。
- 作業中は、作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- ご使用のトラクタに応じて、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを取り付け、バランス調整をしてください。  
【守らないと】 走行時に安定を失い、転倒・横転して死傷するおそれがあります。

### 重要

- 装着型式に合わせた適正なピン・カラー位置でないと、装着操作や作業時に思わぬ事故の原因となります。装着前に必ず確認し、適正な位置に組換えを行ってください。

### 1. 日農工 標準オートヒッチの場合

お買い上げいただいた商品が、JIS(日農工)標準オートヒッチ規格(OS, 3S, 4S, OL, 3L, 4L)の場合は、標準3点リンクにオートヒッチを装着してください。(ササキ純正オートヒッチが推奨です) トラクタメーカー純正ヒッチを使用の場合は、オートヒッチの強度や、姿勢の調整範囲が十分にあるかご確認の上、装着してください。また、標準3点リンク用の長いトップリンクをご使用ください。

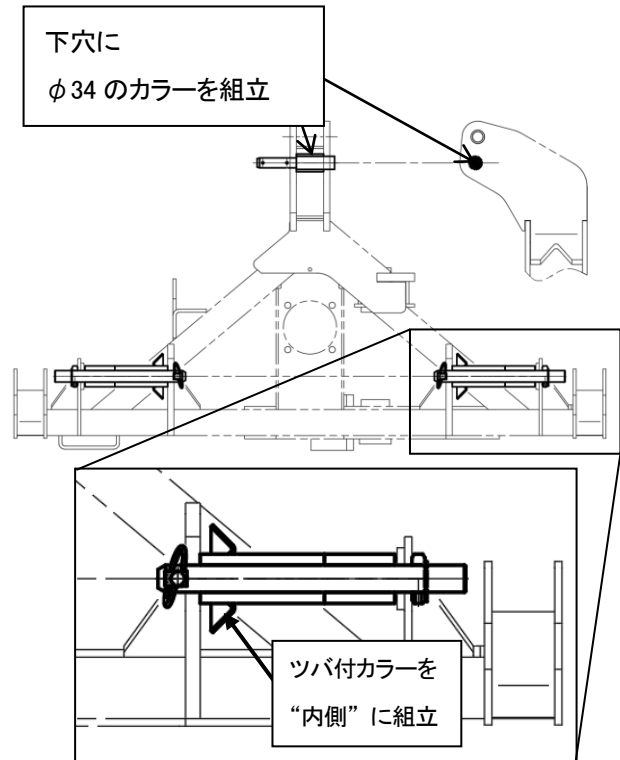


### 1-1. 装着の準備

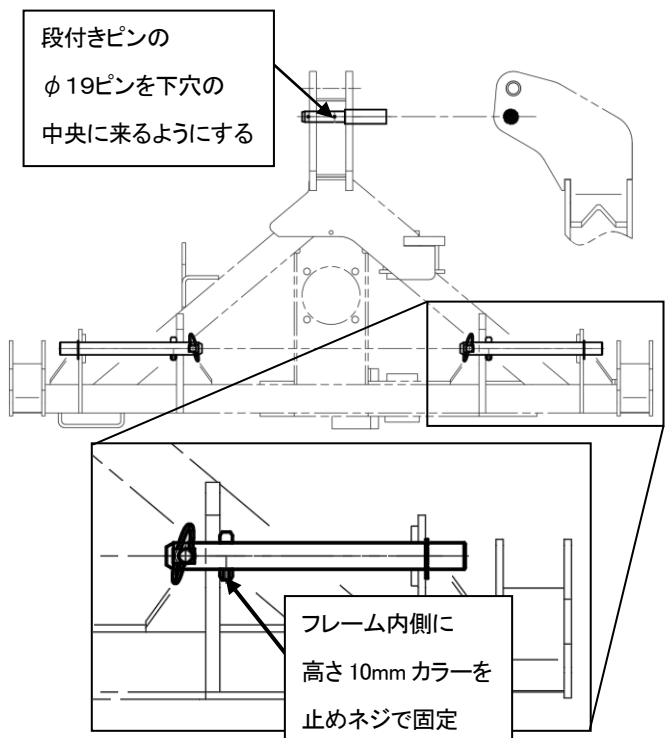
装着するオートヒッチ形式に合わせて、本機のピンおよび、カラーの位置を変更してください。

#### 1-1-1. BMZ100DX - OS/3S/4Sのピン位置

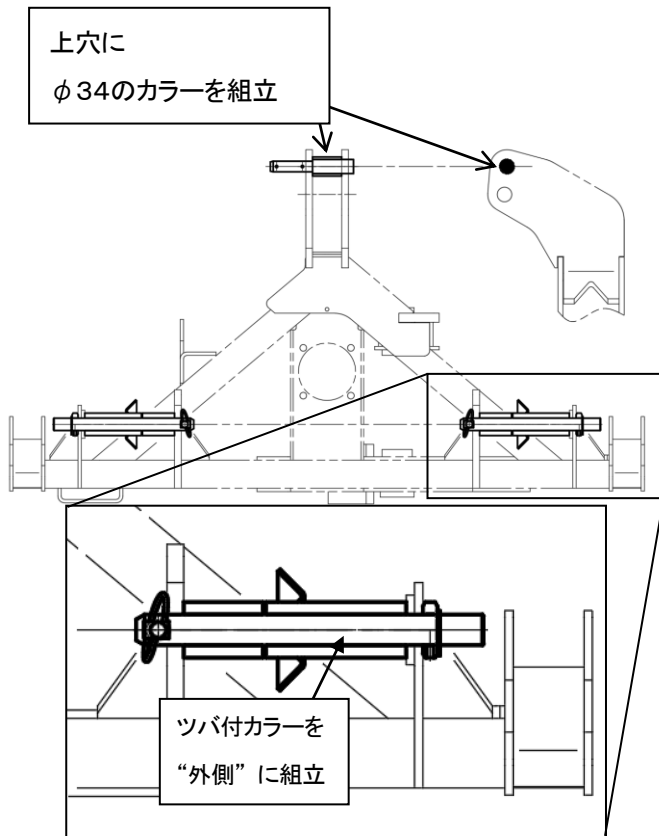
・下部カプラ径がφ40の場合



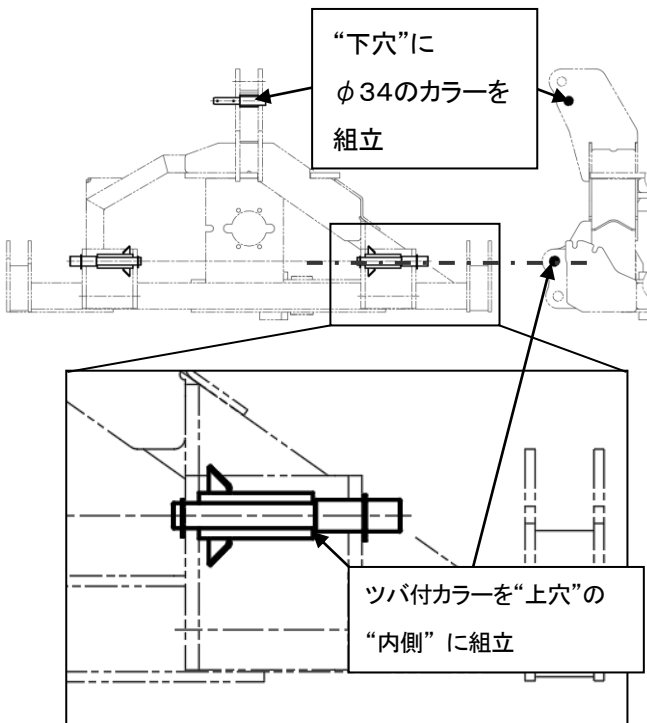
・下部カプラ径がφ22の場合



1-1-2. BMZ100DX - 0L/3L/4L のピン位置



1-1-3. BMZ200DX - 0L/3L/4L のピン位置



1-2. 装着方法

**⚠ 危険**

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。  
【守らないと】 巻き込まれて死傷事故を起こすおそれがあります。
- 装着は、作業機がオフセットしている位置で行わず、必ず格納位置でおこなってください。  
【守らないと】 横転し、死傷事故を起こすおそれがあります。

**⚠ 警告**

- 装着作業する時は、平坦で固い場所でおこなってください。
- 2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。
- 装着は、作業機がオフセットしている位置で行わず、必ず格納位置でおこなってください。
- 作業中は、作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- ご使用のトラクタに応じて、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを取り付け、バランス調整をしてください。  
【守らないと】 走行時に不安定となり、転倒・横転して死傷するおそれがあります。
- 3点リンクの持ち上げ操作時、本機アームの上部がトラクタに接近しますので、必ず目視で確認しながら持ち上げてください。
- ヒッチへの装着操作中にトラクタへ接触の恐れがある場合は、一度本機を降ろし、トップリンクの長さ・穴位置を変更して、ヒッチへの本機装着操作をやり直してください。
- 長さ調節が終わったら、必ずトップリンクをロックナットでロックしてください。
- チェックチェーンの張りを必ず確認してください。アーム動作中、左右方向の重心移動が大きいため、張りがゆるいと大きく揺れ、機械の破損や思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 持ち上げ前に、トラクタの取扱説明書「3点リンクおよび油圧関係」をよく読んでください。

1-2-1. 標準オートヒッチをトラクタの3点リンクに、左ロワリンク、右ロワリンク、トップリンクの順に取り付けて下さい。

1-2-2. 4S、4L の場合は、あらかじめユニバーサルジョイントを取り付けてください。広角側をトラクタのPTO軸に取付けてください。

ユニバーサルジョイント

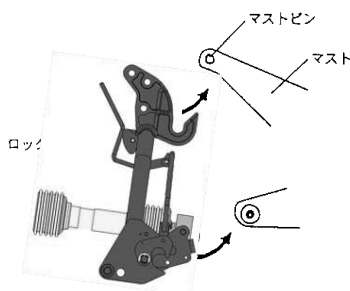


広角側を  
トラクタ PTO 軸へ

標準側を  
オートヒッチへ

1-2-3. 周りに人や障害物がないことを確認してからエンジンをかけ、3点リンクを油圧レバーで下げて本機のマストに向かってゆっくり後退してください。

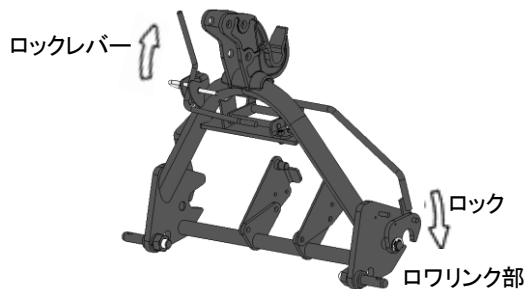
1-2-4. 作業機のトップピンに、標準オートヒッチのフック部を引っかけるように油圧レバーをゆっくり操作しすくい上げると、左右のロワリンクも自動的に装着されます。この時本機が左右に傾いている場合は、リフトシリンダーまたは、リフトロッドを伸縮させ、本機の傾きに合わせてから装着し、最後に水平になる様に再度調整してください。



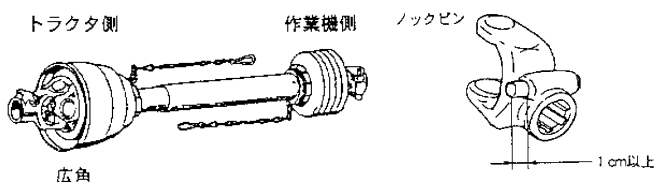
**参考**

- フック部ですくえなかったときや、ユニバーサルジョイントが入らなかったときは、やりなおしてください。
- フック部の下がり量が不足している場合は、トラクタのリフトロッドの取り付け穴位置を下穴へ、またはロワリンク穴位置を前穴へ変えてください。

1-2-5. 標準オートヒッチのロックレバーを操作してロックしてください。



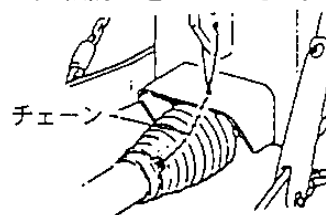
1-2-6. 3S、3Lの場合は、本機がトラクタに装着された後にエンジンを停止し、ユニバーサルジョイントを装着してください。広角側をトラクタのPTO軸へ取り付けてください。トラクタ側、作業機側ともにノックピンが確実に軸溝にはまっているか確認してください。



**参考**

- ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ取り付けるとジョイントの破損の原因になります。
- トラクタによっては、ユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。その時はユニバーサルジョイントの切断が必要です。次頁の **ユニバーサルジョイントの切断方法** (P.16)をお読みください。

1-2-7. ユニバーサルジョイントに付属しているチェーンを、トラクタおよび、作業機に取り付けて、カバーの回転防止をしてください。

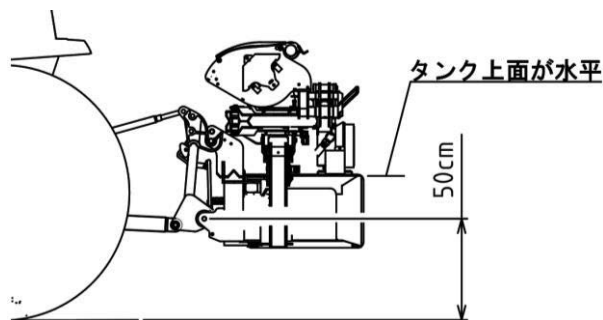


1-2-8. トラクタのエンジンを停止し、電源ハーネスと機体側ハーネスを接続してください。

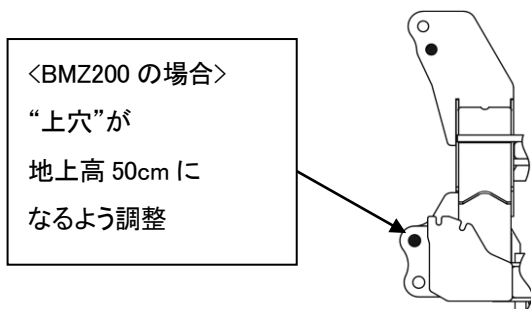
1-2-9. トラクタのエンジンをかけます。3点リンクをゆっくと上げ、スタンドを取り外してください。

1-2-10. 本機のロウピン高さが、地上から50cmの高さになるように3点リンクを降ろします。機体を水平にするため、マストフレーム左側、トップピン近くの矢印の向きを確認し、矢印が小穴を指すようにトップリンク長さを調整してください。矢印が小穴より前方向を指しているときは、トップリンクを伸ばす方向に調整し、後方向を指しているときは縮める方向に調整してください。トップリンクの調整は、フレームに一度スタンドを装着し、3点リンクを下げてキャストを地面に接地させて調整してください。

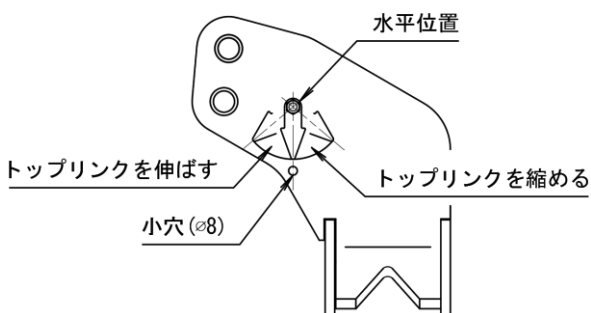
・3点リンクの高さ



BMZ200DXの場合は、ロウプレートの上穴が地上高50cmとなるよう調整します。



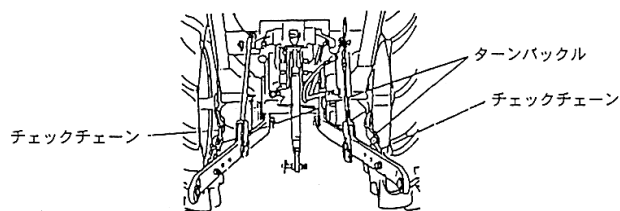
・トップリンクの調整



参考

・作業中は刈取り部の前後角度を適正に設定するため機体の姿勢を水平・垂直に保って作業してください。特に機体の姿勢が前傾の場合は、刈り高さゲージローラが適切に接地しないため、草刈り高さが安定しません。また、前傾姿勢になると、アーム操作中にトラクタへの干渉や機械の破損など、思わぬ事故につながる場合があります。フレーム姿勢に注意してください。

1-2-11. トップリンクがトラクタの中心線上になるように、チェックチェーンを左右均等に張ってください。その後、左右のチェックチェーンのターンバックルを0.5~1回転程度逆に戻し、ロックしてください。



1-2-12. 3点リンクをゆっくと上げながら、作業機とトラクタが接触しないか確認してください。接触する場合は、作業機とトラクタの間隔が10cm以上離れるように3点リンクの上げ規制をしてください。

補足

- ヒッチのロックが掛かり、本機とトラクタの干渉が無く、なおかつスタンドを外す事の出来る位置まで3点リンクを持ち上げたら、その高さで“トラクタの持ち上げ高さ規制”を設定してください。規制を掛けない場合、レバーの誤操作等で、本機がトラクタに接触し破損してしまう場合があります。必ず“持ち上げ高さ規制”をおこなってください。



### 1-3. 取り外し方

#### ⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントを取り外すときは、必ずPTOクラッチを切り、エンジンを停止してください。  
【守らないと】巻き込まれて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 機械の下に潜り込んで作業しないでください。  
【守らないと】機械が予期せず落下して、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 着脱は、作業機をオフセット位置でおこなったりせず、必ず格納位置で水平にしておこなってください。

#### ⚠ 警告

- 脱着作業をする時は、平坦で固い場所でおこなってください。
- 2人で作業をする時は、お互いに合図をしあって、注意して作業してください。

#### ⚠ 注意

周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

1-3-1. 平坦で固い場所を選んでください。その際、周りに人や障害物がないことを確認してください。

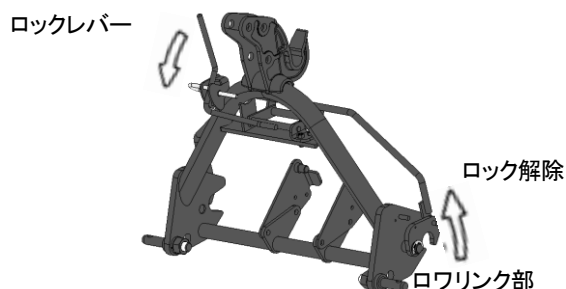
1-3-2. 本機を操作し、刈取り部を格納位置まで移動します。格納操作はリモコンの操作方法(P.33)を参照してください。

1-3-3. 3点リンクを持ち上げ、スタンドが装着可能な高さを確保し、スタンドをフレームへ取り付けてください。取り付け方法はスタンドの装着・取扱方法(P.14)を参照してください。

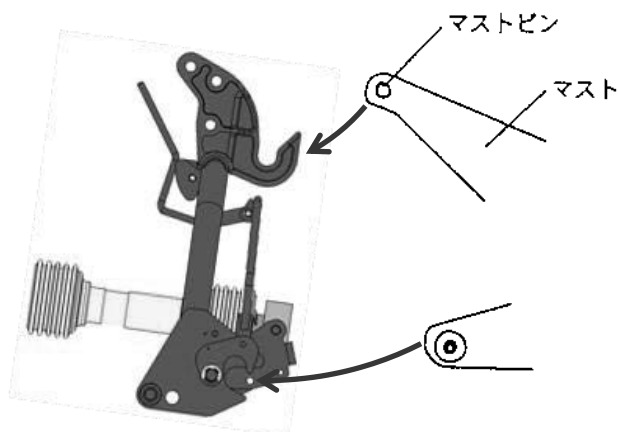
1-3-4. 3S, 3Lの場合は、トラクタのエンジンが停止していることを確認してから、ユニバーサルジョイントを取り外してください。

1-3-5. 電源ハーネスを機体の受信機から取り外してください。

1-3-6. 標準ヒッチのロックレバー操作し、ロックを解除してください。



1-3-7. トラクタのエンジンをかけ、油圧レバーをゆっくり下げて、ロワフック部を外し、さらに油圧レバーを下げながら、トラクタをゆっくり前進させ、オートヒッチのフック部を作業機のマストトップから外してください。

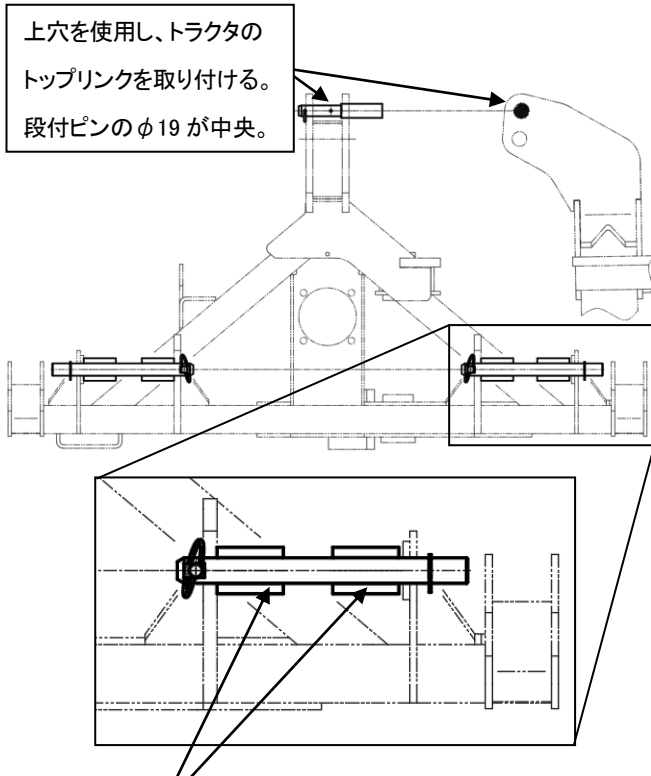


## 2. 標準3点直装使用の場合

### 2-1. 装着の準備

#### ・BMZ100DXの場合

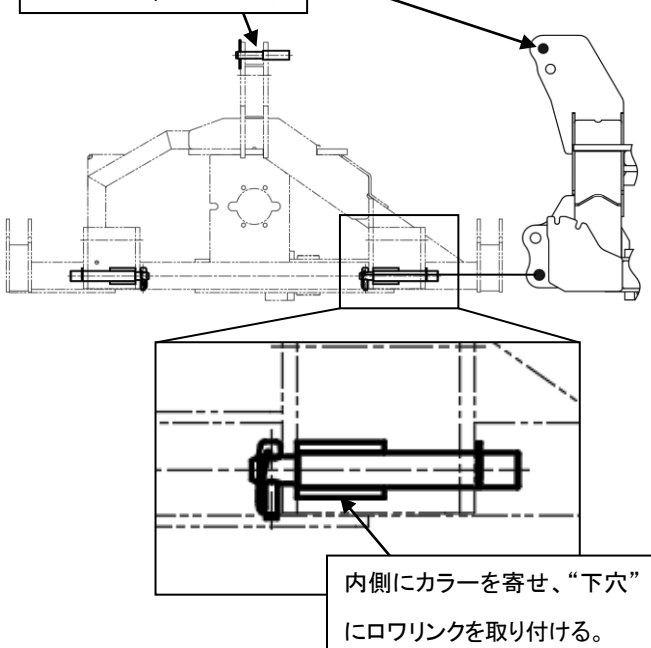
上穴を使用し、トラクタの  
トップリンクを取り付ける。  
段付ピンのφ19が中央。



2つのカラーで、トラクタロワリンクを  
挟むようにしてピンを挿入

#### ・BMZ200DXの場合

上穴を使用し、トラクタの  
トップリンクを取り付ける。  
段付ピンのφ19が中央。



内側にカラーを寄せ、“下穴”  
にロワリンクを取り付ける。

### 2-2. 装着方法

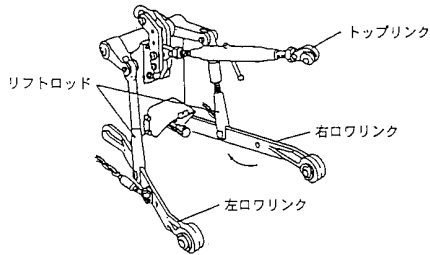
#### ⚠ 危険

- 装着作業する時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。
- 装着は、作業機がオフセットしている位置で行わず、必ず格納位置でおこなってください。
- 作業中は、作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。  
【守らないと】 巻き込まれて死傷事故を起こすおそれがあります。

#### ⚠ 警告

- ご使用のトラクタに応じて、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを取り付け、バランス調整をしてください。  
【守らないと】 走行時に安定を失い、転倒・横転して死傷するおそれがあります。
- 3点リンクの持ち上げ操作時、本機アームの上部がトラクタに接近しますので、必ず目視で確認しながら持ち上げてください。
- ヒッチへの装着操作中にトラクタへ接触の恐れがある場合は、一度本機を降ろし、トップリンクの長さ・穴位置を変更して、ヒッチへの本機装着操作をやり直してください。
- 長さ調節が終わったら、必ずトップリンクをロックナットでロックしてください。
- チェックチェーンの張りを必ず確認してください。アーム動作中、左右方向の重心移動が大きいいため、張りがゆるいと大きく揺れ、機械の破損や思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 持ち上げ前に、トラクタの取扱説明書「3点リンクおよび油圧関係」をよく読んでください。

2-2-1. 回りに人や動物、障害物がないことをよく確認してください。トラクタのエンジンを始動させ、3点リンクを油圧レバーで下げ、トラクタのロワリンクを、作業機のロワリンクピンに向かってゆっくり後退してください。トラクタの左ロワリンクに作業機の左ロワリンクピンを取り付けてください。(付属の位置決めカラーを必ず装着してください。)



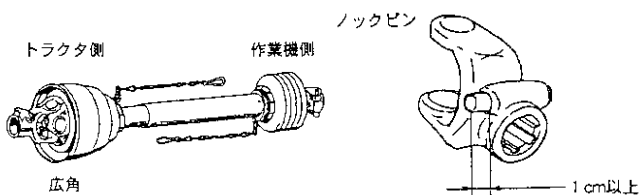
**参考**

BMZ100をカテゴリNo.2型のトラクタへ装着する場合は、付属のロワリンクカラーNo.2を装着し、ロワリンク穴径に合わせてください。

2-2-2. 右ロワリンクをレベリングハンドル又は、リフトシリンダーを操作レバーで調整しながら、作業機の右ロワリンクピンを取り付けてください。(左側同様に各種カラーを装着してください。)

2-2-3. トップリンクをトップブラケットに取り付けてください。

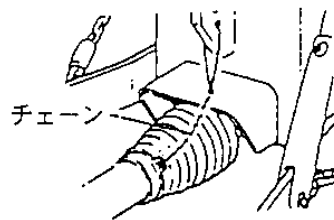
2-2-4. トラクタのエンジンが停止していることを確認してから、ユニバーサルジョイントを取り付けてください。広角側をトラクタのPTO軸へ取り付けてください。トラクタ側、作業機側ともにノックピンが確実に軸溝にはまっているか確認してください。



**参考**

- トラクタによっては、ユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。その時はユニバーサルジョイントの切断が必要です。**ユニバーサルジョイントの切断方法** (P.16)をお読みください

2-2-5. ユニバーサルジョイントに付属しているチェーンを、トラクタ及び作業機に取り付けて、カバーの回り止めをしてください。

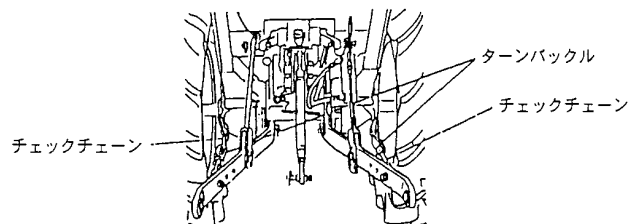


2-2-6. トラクタのエンジンを停止し、電源ハーネスと機体側ハーネスを接続してください。

2-2-7. トラクタのエンジンをかけます。3点リンクをゆっくりと上げ、スタンドを取り外してください。

2-2-8. 本機のロワピン高さが、地上から 50cm 位置になるように3点リンクを下し、オイルタンクが水平・垂直になるようにトップリンク長さを調整してください。(P.22参照)

2-2-9. 本機を少し持ち上げ、PTO軸、ジョイント及び入力軸がトラクタの中心線上にあるように、チェックチェーンを左右均等に張ってください。その後、左右のチェックチェーンのターンバックルを0.5~1回転くらい逆に戻してロックしてください。



## 2-3. 取り外し方

### 危険

- ユニバーサルジョイントを取り外すときは、必ずPTOクラッチを切り、エンジンを停止してください。  
【守らないと】巻き込まれて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 機械の下に潜り込んで作業しないでください。  
【守らないと】機械が予期せず落下して、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 着脱は、作業機をオフセット位置でおこなったりせず、必ず格納位置で水平にしておこなってください。

### 警告

- 脱着作業をする時は、平坦で固い場所でおこなってください。
- 2人で作業をする時は、お互いに合図をしあって、注意して作業してください。

### 注意

- 周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

2-3-1. 平坦で固い場所を選んでください。周りに人や障害物がないことを確認してください。

2-3-2. リモコンで操作し、本機を格納位置まで移動します。格納操作は **リモコンの操作方法** (P.33)を参照してください。

2-3-3. スタンドを本機フレームに取り付けてください。取り付け方法は **スタンドの装着・取扱方法** (P.14)を参照してください。

2-3-4. トラクタのエンジンが停止していることを確認してから、ユニバーサルジョイントを取り外してください。

2-3-5. 電源ハーネスを受信機から抜いてください。

2-3-6. トラクタのエンジンをかけて、油圧レバーをゆっくり下げて、スタンドのキャストが地面に着くまでゆっくり下げてください。

2-3-7. スタンドのキャストが地面に着いたらトップリンクをはずしてください。場合には、右ロワリンクをレベリングハンドル、又はリフトシリンダーを操作レバーで調整して作業機を安定させてください。

2-3-8. さらに油圧レバーをゆっくり下げて、左右のロワリンクをトラクタからはずしてください。

## アタッチメントの装着

### ⚠ 危険

- トラクタとアームの間に立たないでください。
- 必要なとき以外はエンジンを停止してください。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

### ⚠ 注意

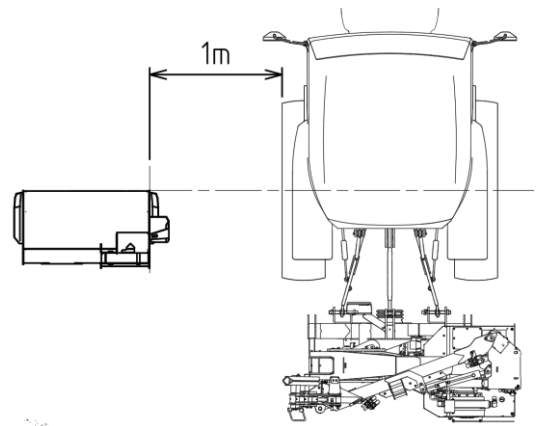
- アタッチの装着を行う際は、必ずアタッチに付属の取扱説明書をあわせて読み、各アタッチに適した操作を行ってください。
- ブームマスターZシリーズのアタッチ以外のものの装着や、吊り上げ、牽引等は絶対にしないでください。
- トラクタの前後進は車速 1km/h 以下で行ってください。
- 油圧カプラの接続はエンジンを停止して行ってください。
- 取り外した油圧カプラ、コネクタ(スイッチ)に必ずキャップをはめ、アタッチのホースホルダを活用して地面に付かないよう保管してください。(詳細はアタッチの取説を参照)

### 重要

- 油圧カプラ接続後、油圧カプラを手で引っ張り、外れないことを確認してください。
- 油圧カプラ、コネクタ(スイッチ)の接続部にゴミ、汚れがある場合は、きれいに取り除いてください。

## 1. アタッチの装着方法

- 1-1. アタッチを平らで硬い地面に置いてください。
- 1-2. アタッチと平行になるよう、トラクタをアタッチの右側へ近づけ、停車してください。トラクタとアタッチの間隔は1m程度を目安とし、停車位置を調整してください。

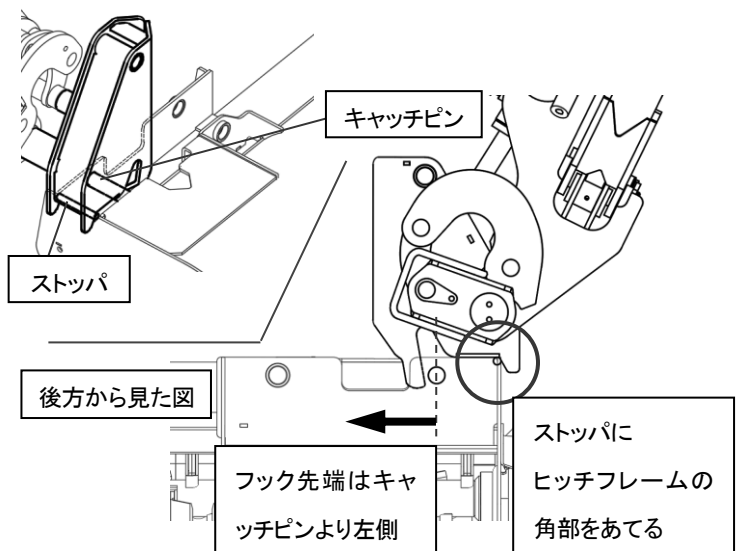


### 参考

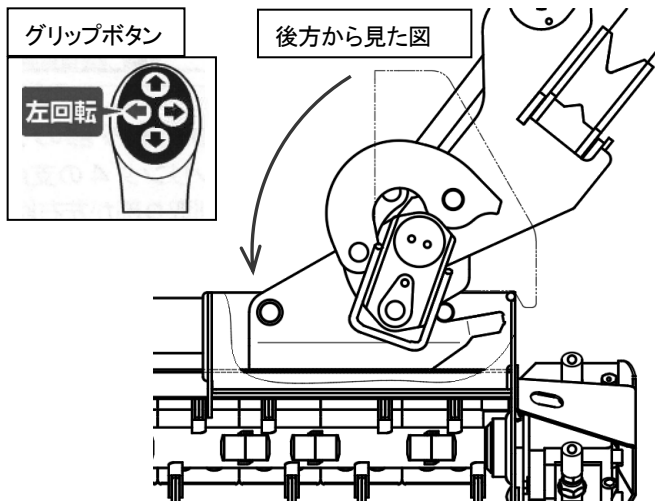
- アームが近接すると、近接防止機能が作動し、トラクタ側へ近づける操作を受け付けなくなります。近接防止機能により装着が出来ない場合は、再度トラクタの停車位置を調整し、アタッチから距離をとるようにしてください。

1-3. ブームマスター本体、コントローラの電源をONにしてトラクタPTOを回してください。操作レバーを操作し、アーム先端をアタッチのフレームの近くまで動かしてください。アームの操作は「リモコンの操作方法」(P.33)を参照してください。

1-4. ブームマスター本体のヒッチフレームを垂直に立て、角部をフレーム(ベース)の縁にあるストッパにあてがうようにヒッチフレームの位置を調整します。角部をストッパに当てた状態で、ヒッチフレームのフック先端がキャッチピンより左側に入っているか確認してください。



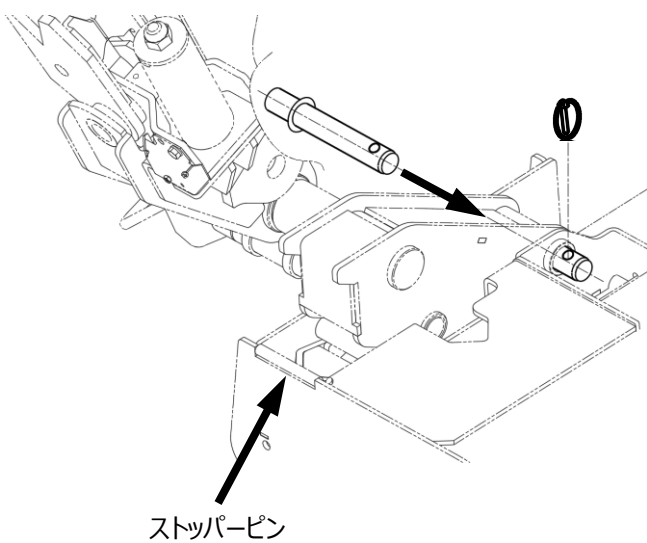
1-5. 操作レバー上面のグリップボタン“左”を押し、ヒッチフレームがアタッチのフレーム(ベース)底面に接するまで左回転させます。



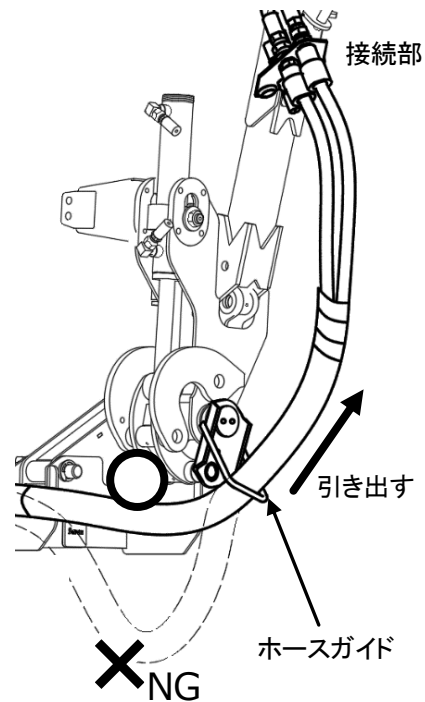
**参考**

- PTOを定格で回すと、シリンダーの伸縮が速く、アーム先端の位置合わせが難しい場合があります。アタッチの近くまでアームを展開したら、アイドリングまで回転数を下げると、調整がしやすくなります。

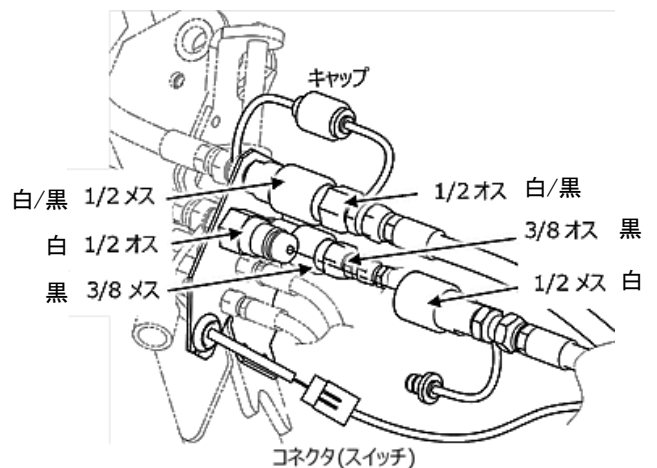
1-6. アタッチピンを挿入し、リンチピンで抜け止めをしてください。



1-7. ヒッチフレーム後側のホースガイドに油圧ホースを通し、後ろ側に引き出します。接続部で油圧カプラ、コネクタ類を接続します。油圧カプラは1/2が2組、3/8が1組です。同じサイズ同士のオス・メスを接続してください。同様にキャップもすべて接続してください。

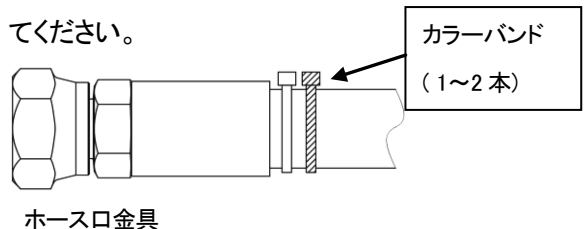


**接続部拡大図**



**参考**

- ホースの口金具の近くに、カラーバンドが巻きつけてあります。上図のように、同じ色同士を接続してください。



## 2. アタッチの取り外し方

アタッチの取り外しは装着時と逆の手順で行ってください。

### 作業前の点検

作業機の性能を十分に引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の点検を行ってください。

#### ⚠ 危険

- 作業前点検は、平坦で十分な広さがある、地盤のしっかりした場所でおこなってください。
- 点検・調整作業をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。  
【守らないと】 障害事故や機械の損傷を引き起こす恐れがあります。

1. オイルタンクの作動油量・油漏れがないか確認  
(保守管理について P.48参照)
2. 各部へのグリース注油 (P. 49参照)  
<BMZ200の場合>  
ミッションオイルの給油(P. 50参照)
3. ホース・継手金具から油漏れや、ゆるみがないか点検
4. 電装ハーネスの損傷が無いか・接続不良が無いか確認
5. トラクタのタイヤ空気圧・フロントウェイトが適正か点検
6. 各部の支点ピンが確実に挿入されているか点検
7. 各部の損傷、ボルト・ナットの緩み点検
8. ナイフの取り付けボルトの緩み、ナイフの減り確認
9. 寒い時期は使用する前に暖気運転してください

## 無線コントローラ (e-ウェーブ)

### について

#### ⚠ 警告

リモコンをトラクタ内に放置しないでください。  
【守らないと】転がってペダルの下へ入り込むと、運転操作を妨げ危険です。確実に固定するようにしてください。

#### 重要

- 無線コントローラは、日本国内の電波法に基づいて製作されております。日本国内でしか使用できません。
- リモコンと受信機は、分解、改造、異なった用途では使用しないでください。正常な動作及び安全を保障できません。
- 無線コントローラを使用中に、煙が出たり、異臭がしたり、操作と異なる動作をした場合、変形・割れがある場合は、使用を中止し販売店へご連絡ください。
- リモコン及び制御ボックスを金属で覆ったり遮ったり、また塗装したりしないでください。電波が届きにくくなります。
- 受信機はカバーで覆われています。カバーを外した状態での洗浄は、おこなわないでください。故障の原因になります。
- リモコン(送信機)と受信機の間で誤作動防止のために、付属のリモコンと受信機以外の組合せでは操作できないようになっております。
- リモコンと受信機のシリアル番号が同じでなければ、操作できません。シリアル番号が異なる場合は、購入先に連絡し、使用可能か確認の上、作業してください。



シリアル番号



シリアル番号

## 重要

- リモコンは精密部品ですので、落としたり、挟んだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため、ガソリン、灯油、シンナーなどの溶剤へつけないでください。割れたり、溶けたりします。
- 電源スイッチを押しても電源ランプが点灯しない、または点滅する場合は、トラクタのバッテリーが消耗していますので、バッテリーを充電するか交換してください。

## 1. リモコン電源と無線チャンネル自動選局機能について

### 重要

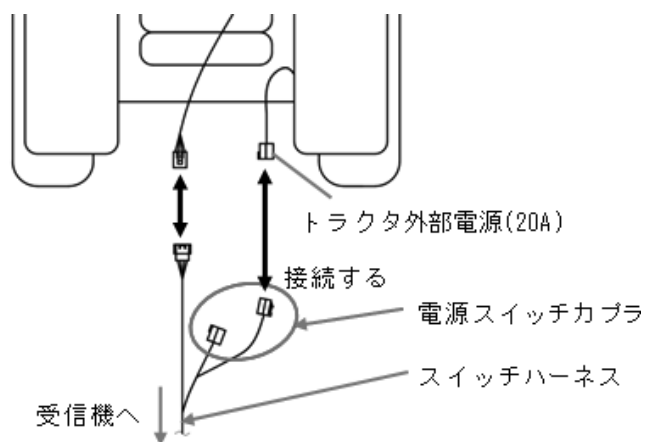
- カプラ接続部の土や汚れはきれいにふき取ってから接続してください。破損の原因になります。
- 使用後は電源スイッチカプラを外してください(電源OFFしてください)。バッテリーがあがる可能性があります。

本機には、リモコンと受信機の通信状況を適正に保つために通信チャンネルを自動変更する“自動選局機能”が備わっています。この機能は、受信機の電源をONにした時に毎回行われて、周りの電波状態を測定し、電波障害の少ないチャンネル領域を自動で選局します。

## 1-1. 電源の入れ方

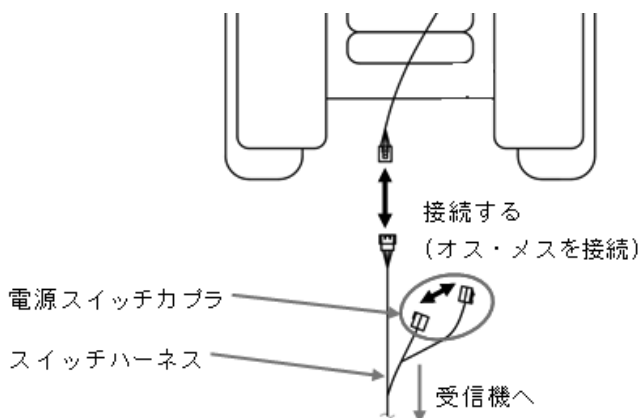
### 1-1-1. 電源をバッテリーから取る場合の受信機電源操作

- ・ トラクタに外部電源取出し(20A)がある場合  
受信機の電源はスイッチハーネスの電源スイッチカプラをトラクタの外部電源(20A)に接続することで、トラクタキースイッチのON/OFFに連動して受信機の電源もON/OFFします。



トラクタ外部電源取出しがある場合

- ・ トラクタに外部電源取出し(20A)がない場合  
受信機の電源はスイッチハーネスの電源スイッチカプラ同士を接続することで電源ONし、カプラを外すと電源OFFします。

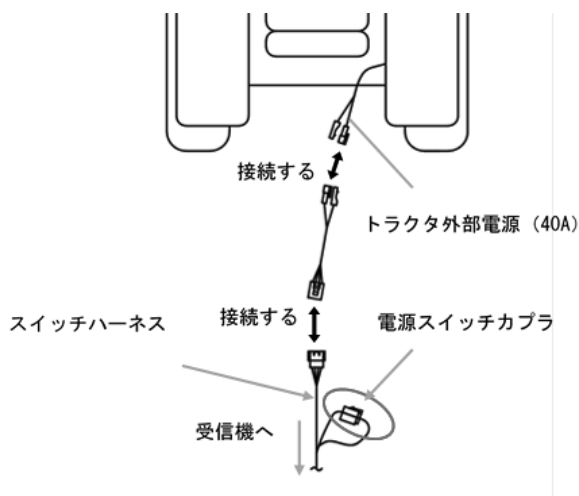


トラクタ外部電源取出しがない場合



## 1-1-2. 電源をトラクタ外部電源取り出し(40A)から取る場合の受信機電源操作

メイン電源をトラクタ外部電源取り出し(40A)から取り出した場合、トラクタキーON/OFFに連動して受信機の電源もON/OFFします。スイッチハーネスの電源スイッチカプラは接続した状態にしてください。



## 1-2. 電源の入れ方

1-2-1. ハーネス中間部の”電源スイッチカプラ”を接続または、トラクタ電源を”ON”してください。自動選局が実行されてから、受信機から「ピピピピー」とブザーが鳴ります(自動選局の機能内容は、**無線チャンネルの自動選局について**(P. 31)を参照)

1-2-2. リモコン(送信機)の電源ボタンを押してください。リモコンの電源ランプが点灯します。

1-2-3. 無線チャンネルの通信状態により、リモコンの通信エラーランプ状態が変わります。送受信機を確認し、下表のように電波障害のある場合は、1-2-1. から再操作してください。

	○ 通信障害無し (チャンネル選択された場合)	△ 通信障害有り (通信がつかない状態)
送信機 電源ランプ	“点灯”	“点滅”
受信機 ブザー音	“ピピッ”	“-” (鳴らない)

## 1-3. 電波について

無線通信は電波で通信を行っています。電波は周りの電波(携帯電話等電波を発する機器)のノイズや自然界(太陽光のフレア、地核変動、磁場)、天候(雷、雨、霧、湿度が高い等の空気中の水分)の影響で弱まったり途切れたりする場合があります。作業機操作中に通信が途切れ、操作停止する事があります。この場合は機械の故障ではありません。電波状況が良いと通信は良好になります。

## 1-4. 無線チャンネルの自動選局について

### 重要

- 自動選局機能は、電波障害を完全に解消できる事を保障するものではありません。

e-ウェーブには、外部の電波状況を測定して電波障害の少ないチャンネル(電波周波数)を自動で選局する機能があります。チャンネル選局は受信機の電源を入れる度に行います。**電源の入れ方**を参照し、電源を入れる操作を行ってください。

下表の6種類の中からチャンネルが選局されます。

チャンネル種類番号	コントローラ内部チャンネル番号	電波周波数(GHz)	選局の優先順位
1	0	2.405	2位
2	4	2.425	3位
3	6	2.435	4位
4	10	2.455	5位
5	13	2.470	6位
6	15	2.480	1位

## 補足

作業中に以下の症状が発生する場合は、自動選局を再度行うと電波障害が解消される可能性があります。

1. 作業現場で、リモコンを操作したら、シリンダーが停止する事が多い。
2. リモコンを操作中にシリンダーが止まったり、動いたりを頻繁に繰り返す場合。
3. リモコンを操作中にシリンダーが止まり、何回もリモコン操作したが動かなかった場合。

電源が投入されると、外部の電波状況を測定します。電源を入れてから、ブザーが“ピッピッピー”と約1秒後鳴る場合は、現在選局されたチャンネルが良好です。通信環境が悪い場合は選局が実行され、約12秒後にブザーが鳴り、自動選局が完了します。

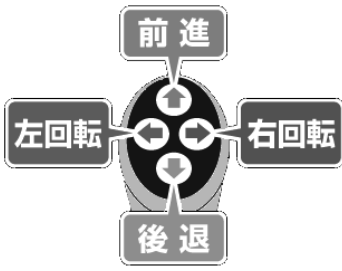
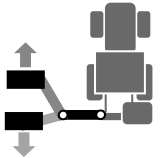
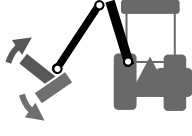

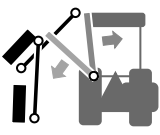
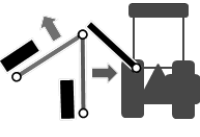
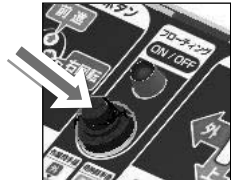
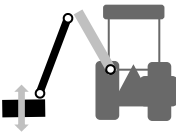
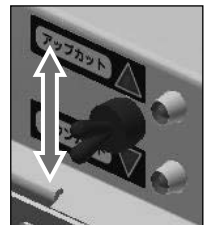
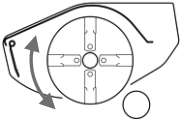
## 2. リモコンの操作方法

### 重要

- 操作する前に必ず取扱説明書をよく読み、理解してから作業してください。  
また、作業をする前は必ずリモコン操作と本機の動作を理解し、操作練習を行ってください。

### 2-1. リモコン各部の名称と機能

図および、スイッチ操作と機体動作の対応表を確認し、操作を行ってください。

スイッチ	操作	機体の動作	動作イメージ図
グリップボタン 	上ボタン	アーム 2 が 前進します	
	下ボタン	アーム 2 が 後退します	
	左ボタン	アタッチが 左ロールします	
	右ボタン	アタッチが 右ロールします	
十字スイッチレバー 	前に倒す	アーム 1 が 下がります	
	後に倒す	アーム 1 が 上がります	
	左に倒す	アーム 2 が 外へ開きます	
	右に倒す	アーム 2 が 内へ閉じます	
フローティングボタン 	ON (LED 点灯)	フローティング& 負荷センサ ON	
	OFF (LED 消灯)	フローティング& 負荷センサ OFF	
ローター回転スイッチ 	上	モーターが 正転します	
	中央	モーターが 停止します	
	下	モーターが 逆転します	
電源スイッチ	押す	リモコン電源を ON/OFF します	
ローター停止スイッチ	押す	モーターが 停止します	

## 参考

- 電源投入時、「ローター停止ボタン」が「解除」された状態、または、前回作業時に「フローティングモード」を解除しておらず、赤 LED が点灯している状態では、誤操作による事故防止のため、コントローラの操作を受け付けません。ローター停止ボタンを押し、フローティングモードを解除してから再起動してください。
- リモコン操作中に、通信環境の影響から動作が断続的になったり、中断したりしてしまう場合があります。これは、無線通信が一旦途切れ、再び繋がるまで待機している状態ですので機械の故障ではありません。一旦スイッチ操作を止め、再度スイッチ操作を繰り返してください。操作を繰り返しても動作しない場合は作業を中断し、受信機・送信機の電源を入れ直し(自動選局の再設定)を行ってください。改善しない場合は、各部の点検を行ってください。
- モーターの回転方向とアタッチの動作の関係については、各種アタッチの取扱説明書を参照ください

## 2-2. アームの展開方法 (手動操作)

①格納位置から開始。



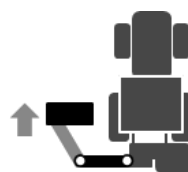
②十字レバーを左方向に倒し、  
第2アーム "外" へ出す。



③十字レバースイッチを前方向に倒し、  
第1アームを"下"へ下げる。



④グリップボタンの前進ボタンを押し、  
第2アームを"前"へ出す。

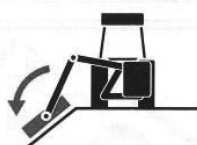


⑤グリップボタンの左回転ボタンを押し、アタッチを"左回転"し展開。

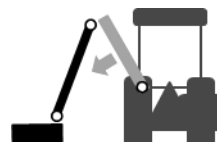
"左・右回転"でアタッチの角度を調整し、地面と平行になるように合わせる。

下方法面：左回転

上方法面：右回転



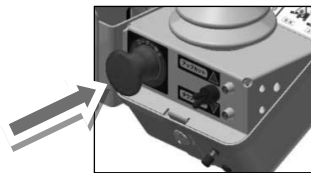
⑥十字レバースイッチを前方向に倒し、  
第1アームを"下"へ下げ、地面と平行に接地させる。



### 2-3. アームの格納方法（手動操作）

①モーター停止を確認。

※モーターが停止していない場合は、  
ローター停止ボタンを押してください。



②十字レバーをうしろ方向に倒し、  
第1アーム ”上” へ上げる。地面から離脱します。



③グリップボタンの右回転ボタンを押し、  
刈取り部を“右回転”する。  
(右回転しきる位置が格納位置です。)



④グリップボタンの後退ボタンを押し、  
第2アームを”後”へ下げる。  
(後退しきる位置が格納位置です。)



⑤十字レバーをうしろ方向に倒し、  
第1アーム ”上” へ持ち上げる。  
※一度に格納位置まで持上げると  
左右の重心位置が大きく変わり、  
不安定になります。



⑤～⑥を繰り返し、作業部の動作範囲が  
大きくならないように折り畳んでください。

⑥十字レバースイッチを右方向に倒し、  
第2アーム”内”へ入れる。



格納完了です。



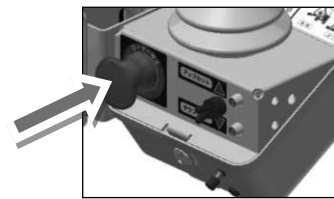
## 2-4. アーム部の自動展開・格納機能 (オートマスターZ)

### ⚠ 注意

- 操作前および、操作中は周りに人や動物、障害物がないことを十分に確認してください。操作中、障害物などとの接触、衝突が予見された場合は、直ちにコントローラから手を離して自動操作を中断し、手動操作で回避しながら目標の位置まで操作してください。
- 自動動作中、障害物等との接触を感知して、自動で退避動作をとる機能を備えておりますが、衝突回避を完全に保障するものではありません。障害物の位置、強度や通信状況などによって接触を感知できない場合があります。操作中は必ず目視にて周囲を十分に確認し、接触を避けてください。
- 不整地路では、車両の荷重変化による姿勢の片寄りが起こる可能性があります。平坦で固い地面の上で行ってください。
- 機体が作業標準高さ(ロワピンの地上高50cm)にあり、前後姿勢がトラクタに対して平行(水平)であることを確認してください。前傾姿勢だとアームを振り出した際に、トラクタに干渉する恐れがあります。
- キャビン仕様車はリヤハッチを閉めてください。アーム動作中に干渉する恐れがあります。
- 自動展開・格納操作の際は、PTOを定格回転750rpm以上にしてください。(使用可能回転数は750~1000rpmです) 回転が低いと、シリンダーの動作が遅くなり、誤動作する恐れがあります。

## ・自動展開・格納の操作方法

1. 周囲にアームの動作を妨げる障害物が無いか十分に確認してください。
2. 機体が作業標準高さにあり、前後姿勢がトラクタに対して平行(水平)であることを確認してください。キャビン仕様車は、リヤハッチを閉めてください。
3. ローター停止ボタンを押込み、モーターの回転が停止していることを確認してください。



**補足** ローター停止ボタンが“解除”の位置では自動展開・格納ができません。

4. PTOを定格回転 750rpm以上にします。  
(使用可能回転数は750~1000rpmです)

**補足** 自動展開の最後に作業部を一定時間 左ローリングして展開します。格納位置からスタートすると作業部が水平に近い角度で停止しますが、ロール角度が格納位置より開いた位置から開始される場合は、停止位置で作業部が左下がりになる場合があります。目的の位置に近づいたら自動展開動作を中断し、手動操作で作業部のロール角度を微調整してください。

5. 下図のように、リモコンの十字スイッチレバーとグリップスイッチを同時に操作し、その状態を維持します。自動動作中は、ブザー音が“ピピッ、ピピッ、…”と鳴り、ホームポジションに達すると動作が停止し、“ピーピー”のブザー音が鳴ります。自動動作の途中で、十字スイッチレバー、グリップスイッチを離すと動作は停止します。アームの動作を妨げる障害物等がある場合は、コントローラから手を離し、動作を停止させてください。

・展開動作

「十字スイッチレバーを“左”に倒す」と、「グリップボタンの“左”を押す」を同時に操作。



←ボタン + レバーを左に倒す

**補足** アーム展開方法(P.34参照)の①～⑤までを自動で行います。⑤の作業部の角度調整は、自動展開終了後、手動操作で調整が必要です。調整したら、レバーを前に倒し、接地させてください。

・格納動作

「十字スイッチレバーを“右”に倒す」と、「グリップボタンの“右”を押す」を同時に操作。



⇒ボタン + レバーを右に倒す

**補足** アーム格納方法(P.35参照)の②～⑦までを自動で行います。

## 各機能について

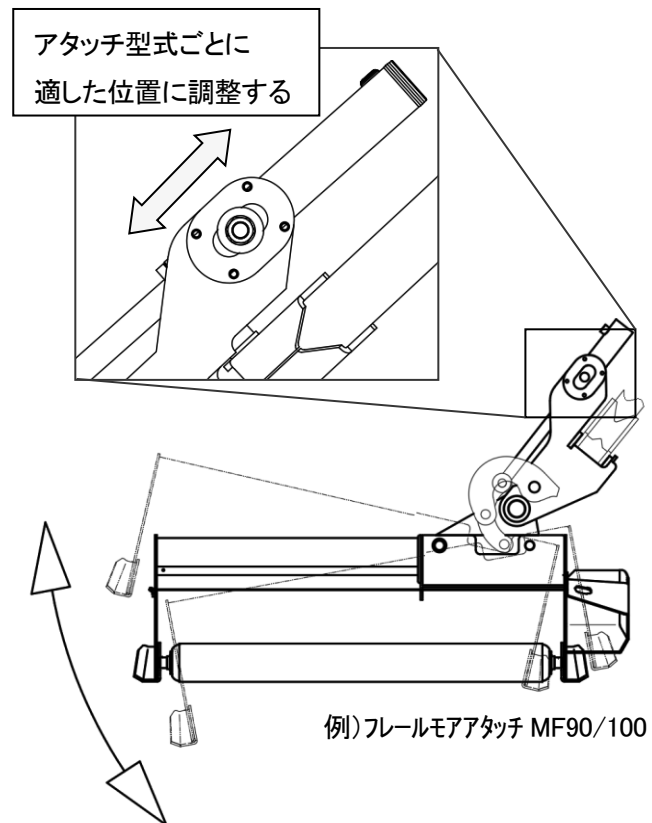
### 1. フローティング機能・機構

本機には、圃場の凹凸に追従性を高めるため、フローティング機構を装備しています。

#### 1-1. アタッチのローリング フローティング

アタッチが左右回転方向に回動し、傾斜変化に対応します。シリンダー4の支点部が上下にスライドし、アタッチが左右にローリングします。

**補足** シリンダー4が長穴のどの位置にあるかによって、可動範囲が変化します。長穴の中間位置にあれば、左右均等な範囲でフローティングし、中間位置からずれることで、偏りが生じます。各アタッチに適した、位置関係がありますので、アタッチの取扱説明書を参照し、シリンダー4の位置を調整してから作業を開始してください。



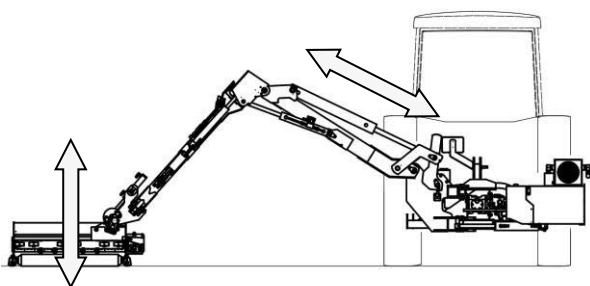
例)フレールモアアタッチ MF90/100

## 1-2. アームシリンダーのフローティング

### 重要

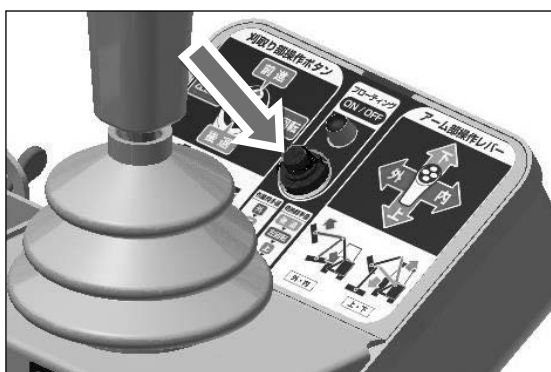
- 地面から浮遊させて使用するアタッチメントでは、フローティング機能を使用することで、アタッチ部が降下し、作業に支障が出る場合があります。アタッチの取扱説明書をお読みの上、状況に適した選択を行ってください。
- フローティング機能はトラクタの速度や障害物の大きさにより、回避動作が間に合わない場合があります。作業条件・場所に合わせた適切な走行速度を選択し作業してください。また、草刈作業の場合、地面が軟弱である場合や、凹凸が大きい場合は、フローティング機能を OFF 状態にして、あらかじめ刈取り部を地面から浮かせて作業してください。
- 圃場に障害物がある場合は必ずフローティング機能を中断し、障害物を回避してから作業を再開してください。

フローティングボタンを押すと、シリンダー1が伸縮フリーになり、圃場の凹凸に追従します。



### ・操作手順

1. 目的の圃場に作業部を接地させます。
2. リモコンの”フローティングボタン”を押します。  
(赤ランプが点灯)



3. レバースイッチを前に1回倒すことでフローティング機能が開始します。
4. ローターを回転させ、作業を開始します。

### 補足

- 圃場の極端な凹凸や障害物がある場合、十字レバー操作のみでフローティング機能を一時的に停止し、回避操作をとることができます。

### ・フローティングの中断操作

フローティング機能が起動中(赤ランプが点灯し、スイッチレバーを前方に倒す操作後)に、レバースイッチを手前に倒す操作をすると、伸縮フリー動作状態を一時解除します。

### ・フローティングの再開操作

障害物を回避したら、レバースイッチを前方に倒す操作で再度、フローティング機能が再開します。



## 2. 安全機能・機構(ガードマスターZ)

### 2-1. トラクタへの近接防止機能

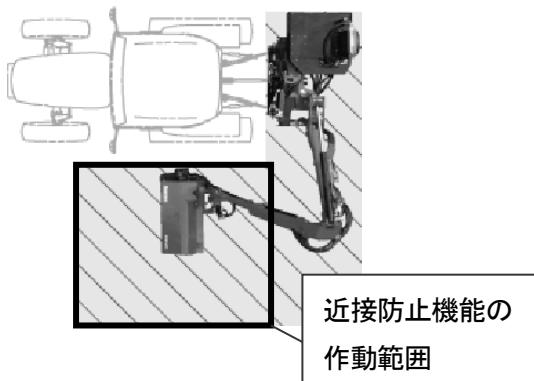
#### ⚠ 注意

- トラクタとの接触回避を完全に保障するものではありません。操作中は、目視で作業部、アーム周囲の位置を目視で確認し、接触しないようにアームの姿勢を調整してください。

#### 重要

- ・ 第2アームが前進位置(トラクタの横まで作業部が前進している状態)にあるとき機能します。
- ・ フレームの左右姿勢の変化により接近距離が異なります。操作中は目視で動作を監視し、トラクタへ接触しないように姿勢を調整してください。
- ・ トラクタは、目的の作業面から十分に距離を取り、無理に接近しないでください。
- ・ 接触防止機能は、センサの故障等で正常動作できない場合があります。
- ・ 刈取部の位置を目視確認せずに展開・格納操作すると、トラクタに接触する可能性があります。アームの位置は、必ず目視で確認しながら位置調整し、接触を回避してください。

アーム先端の位置がトラクタへ近接した場合に、ブザー警告と共にアームの動作を強制停止し、接触を防止します。強制停止が作動した場合は、ブームを後退させるか外に開き、トラクタから離れた安全な位置に修正して作業を再開してください。



### 2-2. ローター回転自動停止機能

#### ⚠ 注意

- モーターは急停止しません。作業が終了したら、アームを操作する前にローター停止スイッチを押し、ローター軸が停止していることを確認してから、アーム操作をしてください。

ローターの回転を止めずに、手動操作にてアームをトラクタ後方に折りこむ誤操作をした場合に、ローターの回転を自動で停止し、巻き込み事故、トラクタへの飛散を防止します。



### 3. 機体の保護機能（トリプルセーフティーマスターズ）

#### ⚠ 注意

機体の破損回避を完全に保障するものではありません。操作中は、目視で作業部、アーム周囲の状態を目視で確認し、アームの姿勢を調整してください。

#### 重要

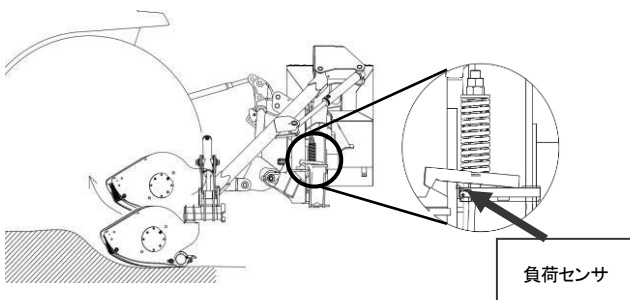
- ローター停止ボタンを“解除位置”にすることで負荷センサの検出が有効になります。
- 負荷センサによる回避動作の頻度が多い場合は、車速を落として作業するか、フローティング機能をOFFにして地面から浮かせた状態で作業してください。
- 作業アタッチ部のオフセット位置がトラクタ接近規制位置に達すると自動動作は停止します。
- 負荷が継続される場合は“ブレーキバック機構”が作用してブームユニットが後方に逃げる場合があります。（P.41 ブレーキバック機構参照）

#### 3-1. フレーム部 負荷センサ

圃場面の大きな凹凸に対しアームを一時的に持ち上げ、回避動作を自動で行います。

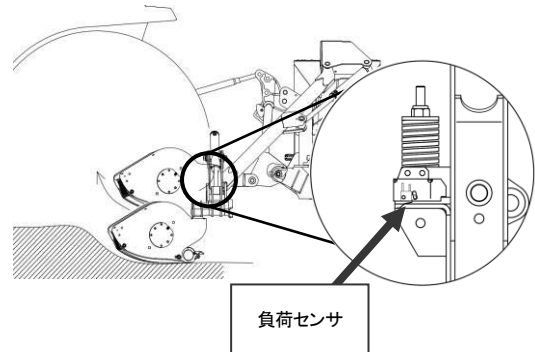
特に、作業圃場面の地盤がしっかりした、場所での作業走行で有効に機能します。

作業部前方から負荷を受けた場合に、旋回フレームが後方に回動したことをセンサにて検出すると、“ピピッ、ピピッ、…”のブザー音と同時に、自動でアームの持ち上げ動作を行います。障害の回避を補助し、機体への負荷を軽減します。



#### 3-2. アーム先端 負荷センサ

地面の凹凸によってアタッチが受ける前方からの負荷を、アーム先端のセンサが検知して上げ動作を自動で行います。障害の回避を補助し、機体への負荷を軽減します。



### 3-3. ブレーキバック機構

#### ⚠ 注意

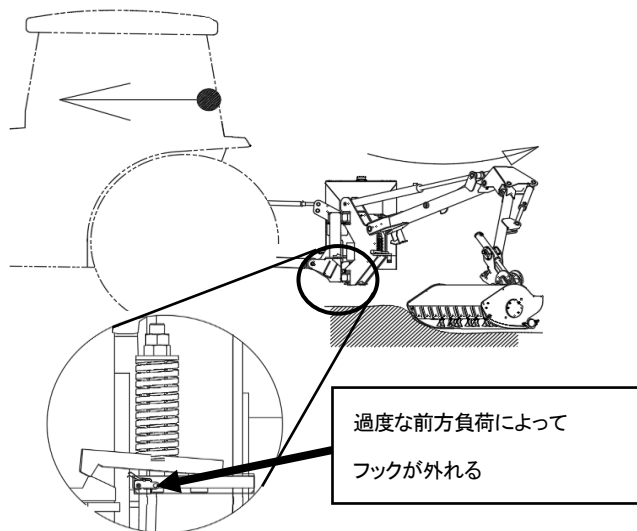
- 機体の破損回避を完全に保障するものではありません。操作中は、目視で作業部、アーム周囲の状態を目視で確認し、無理な作業は絶対にしないでください。
- 障害物や凹凸は、作業前に必ずその場所を確認し、回避するか作業をしないでください。
- 装着するアタッチの種類によって、動作特性が異なるため、障害回避や、破損防止の効果に差があります。アタッチごとの作業特性を十分に理解し、回避動作を考慮した位置で作業してください。
- 障害物がある場合は、必ず回避してから作業してください。無理に障害物に近づかないでください。
- ブレーキバックが作動したら、直ちにトラクタを停止させてください。また、作業中すぐに走行停止できるように、余裕を持った車速で作業してください。
- ブレーキバック作動後、アーム・アタッチ部を引きずり走行すると動作範囲を超えてしまい、機械破損につながります。ブレーキバックが作動したことに気づかず、引きずり走行をしてしまった場合は、作業を中断し、部品破損が無い点検を行ってください。破損部品・脱落部品がある場合は、部品交換・修理を行ってください。
- 全方位からの負荷には対応しておりません。アタッチ前端を上部から押さえるように、引っ掛かると機体への負担が大きく、破損に繋がります。また、刈取り部の後方や内側に回避動作を妨げる障害物や急斜面がある場合は、後退出来ず、破損につながります。周囲に障害の無い事を確認し、回避動作を考慮した位置で作業してください。
- 旋回フレームの前後姿勢により、作業中は作業進行方向に対しフレームの旋回縦軸が垂直になるように前後水平を維持して作業してください。旋回軸が傾くことで、旋回しにくくなることで、アームへの負荷が大きくなり、破損につながる恐れがあります。

#### 重要

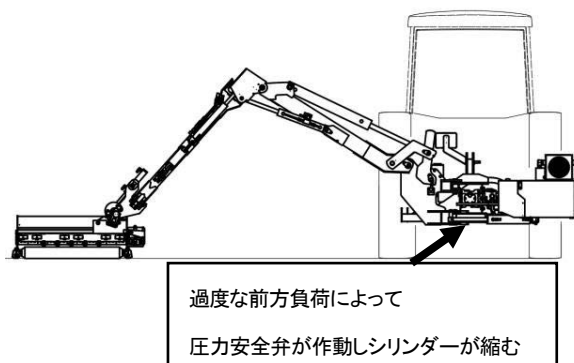
- BZM100DXの場合: ブレーキバックフック部のバネは調整しないでください。間違った長さになると、フレーム部負荷センサの効き具合が変わると同時に、ブレーキバック作動のきっかけとなる負荷の大きさも変わり、機体の破損につながりません。出荷時のバネ長は112mm~114mmです。
- BMZ200DXの場合: セーフティシリンダおよび、付随する油圧配管にオイル漏れがない事を確認してください。また、タンクカバー内の圧力安全弁は調整しないでください。間違った設定ではBMZ100の場合と同様に機体の破損につながります。

作業中、アームやアタッチに障害物が接触するなど、進行方向前側から負荷が大きく掛かった場合、本機マストフレーム後方の、旋回フレームを後方に逃がすことで、アームやアタッチの破損を軽減します。

#### ・BMZ100DXの場合



#### ・BMZ200DXの場合



### 補足

- ブレーキバックが作動し、旋回した旋回フレームは以下の操作によって、標準位置へ戻す必要があります。

### 重要

- 動作状態を目視で確認しながら低速で復帰操作を行ってください。
- フック部の復帰(フックが掛かる)を確認したら、直ちに停車してください。動作範囲を超えて、アーム・アタッチを引きずり走行すると機体が破損します。

#### ・BMZ100DXの場合

##### (機械式ブレーキバックの復帰方法)

ブレーキバックが作動し、フックが外れた場合は、以下の手順に従ってフック・旋回フレームを復帰してください。

1. ローター停止スイッチを押して、回転を停止してください。
2. フローティング機能を OFF にしてください。
3. 周囲に人がいない事を確認し、アタッチが接地した状態で、トラクタを真っ直ぐ、0.5km/h以下の極低速で後退させます。
4. フックが掛かり復帰完了です。フックが掛かったら直ちに停止してください。周囲の安全を確認し、障害物を回避したら作業を再開します。

### 参考

- ・トラクタを後退しただけでフックが復帰しない場合は、上下フックが掛かる寸前でレバースイッチを前方に倒しアームを下げながらトラクタを後退すると、フックが掛かりやすくなります。
- ・リモコン操作をあわせてもフック復帰が困難な時は、アームを格納位置まで操作し、トラクタを低速で移動し広く平坦な場所で、再度フック復帰操作を行ってください。

#### ・BMZ200DXの場合

##### (油圧式ブレーキバックの復帰方法)

ブレーキバックが作動し、旋回フレームが後方に旋回した場合は、以下の手順に従って旋回フレームの復帰を行ってください。

1. ローター停止スイッチを押して、回転を停止してください。
2. フローティング機能を OFF にしてください。
3. エンジンをアイドル状態にし、PTO回転数を下げてください。
4. 周囲に人がいない事を確認し、トラクタを真っ直ぐ後退させ、またはアームを操作して負荷となる障害物から離れてください。このとき、アタッチを大きく持ち上げず、作業面から少し浮かせた状態でアームを操作します。
5. 旋回フレームを油圧操作にて復帰させます。グリップボタンの前進ボタンを押すと、前進シリンダーと連動してセーフティシリンダーに油圧が掛かり、前方へ旋回します。
6. 油圧シリンダーによって旋回位置が復帰したのち、前進操作を継続し第2ブームが少し前進方向に動作したのを確認したら復帰完了です。周囲の安全を確認し、障害物を回避したら作業を再開します。

## 運転及び作業について

### 1. 運転・操作の練習

#### 重要

- 安全に作業するために、操作方法をよく理解してから作業してください。

作業前には、必ず“操作・運転”の練習をしてください。操作練習するときは、

1. 作業前に必ず、操作の練習をおこなってください。
2. 練習は、速度1km/h以下の低速で行ってください。
3. 低速で、障害物からの回避を練習してください。

### 2. 移動と圃場への出入りの仕方

#### 警告

- 人や荷物を本機に乗せて、トラクタを運転しないでください。  
【守らないと】 死傷事故を起こすおそれがあります。
- トラクタの運転は、安全のため必ずシートベルトを締めておこなって下さい。
- 移動時は低速であっても、必ず格納位置にして、トラクタのPTOクラッチを切ってから走行してください。
- 急発進・急加速・高速走行・急制動・急旋回はしないでください。

2-1. 圃場への移動は、格納状態で行ってください。

アームを展開した状態にて移動走行すると振動・振れによりアームを破損する恐れがあります。

2-2. PTOを停止した状態で、トラクタの油圧を確実にロックし、チェックチェーンをしっかり張って横揺れがないことを確認してから走行してください。

2-3. 移動走行時は、各アームに振れがなく、シリンダーで位置保持されていることを確認してください。

2-4. 圃場への出入りは、あぜや坂に対し直角に前進で進入し、低速で行ってください。高低差の大きい急斜面の登り降りや、溝越え、あぜ越えが必要な場合は、十分な強度のあるあゆみ板(傾斜が15°以下になる長さ)を使用し、確実に固定してから低速で後退にておこなってください。

2-5. 坂の登りは、トラクタの前部が浮き上がり危険です。フロントウェイトを装着し重量バランスを確保してください。

### 3. 作業のしかた

#### 危険

- 安全のため必ずシートベルトを締めて作業をおこなってください。

#### 警告

- 作業前・作業中は、必ず圃場のまわりに人がいないことを確認し、作業してください。  
【守らないと】 飛散物をぶつけたりして、重大な事故を起こす恐れがあります。
- 斜面で作業をする場合、左右バランスが変わります。トラクタは、必ず平坦な所を走るようにしてください。
- 法面や路肩に近い所での作業時は、作業前に地盤強度を確認のうえ、傾斜面から離れて走行してください。  
【守らないと】 路肩等がくずれ、転倒や横転する恐れがあります。
- 法面作業をする場合、低速で余裕をもって作業してください。  
【守らないと】 重大な事故を起こし死傷する恐れがあります。
- 作業前に作業圃場の状態を十分に把握し、障害となるものは排除するか、その周辺は本機での作業をしないでください。  
【守らないと】 無理に作業すると、機体の破損や思わぬ事故につながる恐れがあります。

## ⚠ 注意

- PTO回転数は750～1000rpmの範囲で作業してください。
- 作業部が回転するアタッチの場合、つる状の草やビニールシート、紐など長いものはローター軸に巻きつきやすいので、作業前に作業圃場から取り除いてください。  
【守らないと】巻きつきを取り除く際に怪我をする恐れがあります。

## 重要

- 草刈作業の場合、草丈が高い圃場では、地表の凸凹や段差・異物がないか、危険なところがないかなど、安全に作業できることを事前に十分確認してから作業してください。また、作業部は高速で回転するため、石など硬いものは前後左右に10メートル以上飛散する場合があります。周囲に人や動物がいないことを確認してから作業してください。
- その他の作業の場合、各種アタッチ付属の取扱説明書に従い、確認を行ってください。

3-1. 作業前に圃場の状況を必ず確認してください。

3-2. アームを展開し、アタッチの角度を作業姿勢に調整してください。展開操作の手順は「アーム展開方法」(P.34)を参照してください。各種アタッチの作業姿勢は、アタッチ付属の取扱説明書参照してください。

3-3. アームシリンダーのフローティング機能を使用する場合は、コントローラの“フローティングボタン”を押し、赤ランプ点灯状態にします(フローティング機能待機状態)。機能の詳細は「アームシリンダーのフローティング機能」(P.38)を参照してください。

3-4. ローター停止スイッチを解除位置にし、ローター回転スイッチを切り替えてください。(油圧モータの回転が開始します。)  
アタッチ付属の取扱説明書参照し、条件に適した回転方向を選択してください。

3-5. アームシリンダーのフローティング機能を使用する場合は、十字スイッチレバーを1回前に倒し、フローティング機能を開始します。

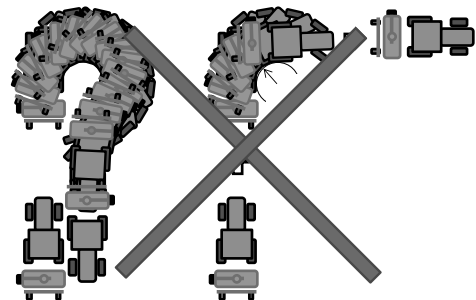
3-6. PTOの回転を徐々に上げ、750～1000rpmの範囲で調整してください。

3-7. トラクタの作業速度は、通常 0.5～4 km/h の範囲で装着アタッチや作業条件に合わせて調整してください。

アタッチ付属の取扱説明書参照し、条件に適した車速を選択してください。

3-8. 作業部を地面に着いたまま、急旋回(片ブレーキ旋回、倍速旋回)はできません。

急旋回した場合、本機の破損へつな갑니다。やむを得ず急旋回する際は、アームを操作して作業部を持ち上げてから旋回を行ってください。



3-9. 草刈り作業走行が終了(又は中断)したら、ローター停止スイッチを押し、ローター回転スイッチを中立位置に戻してください。(モータ回転停止)

3-10. 作業部の回転が完全に停止したら、アームを持ち上げ地面から離脱し、格納位置までアームを折り畳みます。

※格納操作の手順は「アームの格納方法」(P.35)の項を参照

3-11. 格納が完了したら、周囲の安全を確認し、移動走行してください。

#### 4. 作業上の注意点まとめ

##### 警告

- 本機を装着すると、前後バランスが変わります。発進時・登坂時トラクタの前輪が浮く場合は、フロントウェイトを取り付けてください。
- 作業中は、作業機に人を近づけないでください。特に、子供に注意してください。  
【守らないと】 思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 本機に人を乗せないでください。  
【守らないと】 転落事故など死傷する恐れがあります。
- 作業前に、作業面周囲に障害となる物(石・支柱・灌木・切株)の場所を確認し、障害が有る場合は排除するか、又は回避操作をして草刈りしないでください。  
【守らないと】 機体破損や、転倒・横転等の思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 作業中、補助作業者はできるだけ機械から20m以上離れて、作業してください。  
機械周辺に絶対人を近づけないようにし、人が近づいたらただちに作業を中止してください。
- 2人以上で作業をする場合は、お互いに合図をし、確認し合って安全に作業してください。  
特にトラクタのエンジンをかける時や、エンジンが作動している間は、十分注意してください。
- からみつけた草等を取る場合は、トラクタのエンジンを停止してください。  
【守らないと】 巻き込まれてケガをします。
- 点検整備をする場合は、平坦な場所でエンジンを停止しておこなってください。  
【守らないと】 トラクタが動きだして、ケガをするおそれがあります。
- 平坦な場所に保管してください。  
【守らないと】 トラクタが動きだして、ケガをするおそれがあります。

##### 警告

- 圃場から出るときに、前輪が浮き上がる場合は転倒する恐れがあるので、無理をせずに後退で出てください。その後、フロントウェイトを装着してください。
- 電線付近での作業は、囲いを設けるなど感電防止の対策をしてください。
- 後進での草刈作業は実施しないでください。
- 法面や路肩に近い所での作業時は、作業前に地盤強度を確認のうえ、傾斜面から離れて走行してください。  
【守らないと】 路肩等がくずれ、転倒や横転するおそれがあります。
- 法面作業をする場合、低速で余裕をもって作業してください。  
【守らないと】 重大な事故を起こし死傷するおそれがあります。

##### 注意

- 作業部の回転は、作業部を作業面に着け、作業姿勢が整ってから回転させてください。
- 異音が発生した場合は、直ちにPTO クラッチを切り、エンジンを停止してから点検・処置をしてください。**トラブルの原因と処置方法**をお読みください。
- 逆転PTOでは使用できません。
- 運転者が運転席を離れる際は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- 作業部を地面に着いたまま、急旋回(片ブレーキ旋回、倍速旋回)はできません。  
急旋回した場合、ブームモアの破損へつながります。
- モアの周辺は異物等が飛散しますので、人や建物などに被害を与える可能性があります。危険です。



## 注意

- 作業部の周辺は異物等が飛散しますので、人や建物などに被害を与える可能性があります。
- ロプス車で作業する場合は、安全のためにヘルメットや保護メガネを必ず装着してください。
- キャビン車の場合は飛び石がガラス等を破損しないように、キャビンを金網とポリカーボネート板等で保護する対策をしてください。
- 圃場面に合わせた適切な走行速度を選択し作業してください。
- 草丈の長い場所や、地面の凹凸が大きい場合はフローティング機能をOFFにして、あらかじめ刈取り部を浮かせて作業してください。圃場に障害物がある場合は必ず、フローティング機能を中断し、回避してから作業を再開してください。
- 刈り取り圃場面の状況や、草刈り状態が目視確認出来ない場所・位置での作業はしないでください。



## オイルクーラについて

### 重要

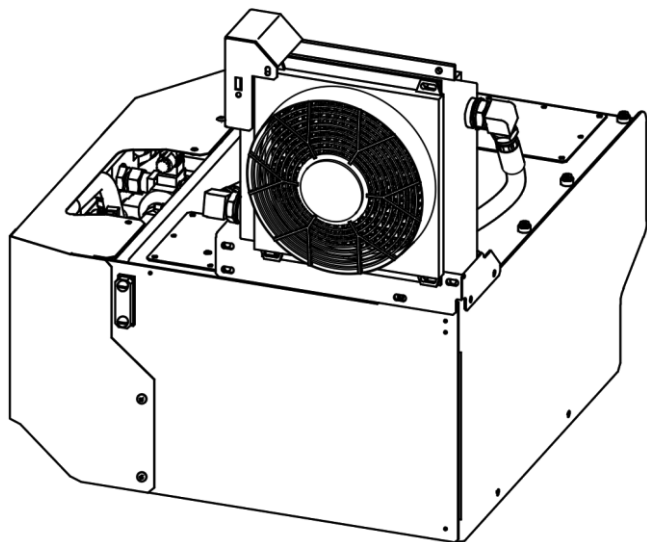
・オイルクーラが作動しても、気温が高い炎天下での作業では、冷却効率が低下し、油温が上昇する場合があります。

オイルタンク上部に油圧作動油冷却装置を標準装備しています。油温上昇を抑制し、長時間作業でも安定した油温を維持します。

オイルクーラは油温50℃以上になると、冷却ファンが作動し冷却を開始します。

アームの動作が極端に遅い、モーターの回転が安定しない場合は油温が高温になっている可能性があります。冷却が進み、油温低下するまで作業を中断してください。この時、PTOの回転は停止せず、回転を継続するとオイルが循環し、冷却時間が早まります。

受信機電源取り出しをキー連動にしていない場合で、作業後にエンジン・PTOを切ってもファンが停止せず1時間以上回転し続ける場合は、再度PTO回転でポンプを循環させて冷却を進めファンを止めるか、または、数時間に渡り作業をしない場合は電源ハーネスを抜いて電源を遮断しファンを停止してください。



## 保管時の移動・運搬について

### 1. キャスタースタンドでの移動

#### ⚠ 注意

- 傾斜地や段差・不整地での保管移動は出来るだけ避けて、本機姿勢に注意し、転倒しないように注意ください。

- 1-1. 移動の前に、スタンドが確実にフレームに装着され、ピンにてロックされていることを確認してください。(スタンドの取扱いの頁(P.14)を参照)
- 1-2. キャスターのストッパを解除位置にし、移動可能にしてください。
- 1-3. キャスター移動の際は、本機を側面から押して移動してください。
- 1-4. 移動が完了したら、スタンド前側のキャスターにロックをかけてください。

### 2. クレーンでの運搬

#### ⚠ 注意

- 吊上げの際は、油圧ホースや電気配線をスリングベルト等で挟み込み、油圧金具に無理な力が掛から無いように注意してください。

- 2-1. 適切な持ち上げ力のクレーンをご用意ください。

BMZ100DX+MF09 ----- 500kg

BMZ200DX+MF10 ----- 730kg

- 2-2. P.12の組立についてを参照し、スリングベルトを使って本機を吊り上げてください。軽く吊り上げてバランスを確認して良好な位置を保ってください。

## 2-3. トラック・トレーラでの運搬について

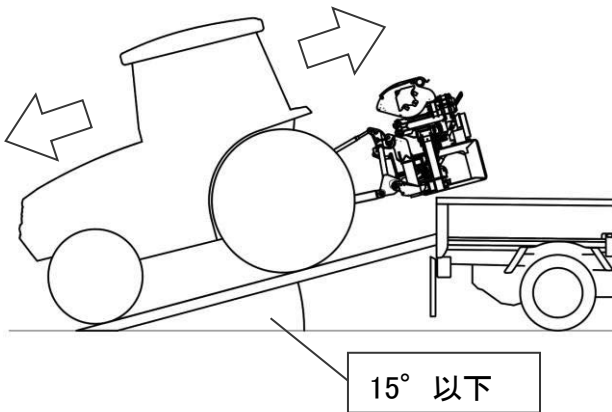
### ⚠ 警告

- トラック・トレーラに積み込み・積み降ろしするときは十分な強度があり、傾斜が15°以下になる長さのあゆみ板を使用してください。

トラックに積み込むときは後進で行い、降ろすときは前進で行ってください。

荷降ろし： 前進

積み込み： 後進



## 保守管理について

### 1. 作業シーズン中

### ⚠ 警告

- 高圧油に注意すること。噴出している油を手足で触らないこと。  
【守らないと】 高圧油が皮膚を突き破り、重大な傷害事故につながります。

- ・作業終了後、水洗いをしてボルト・ナット・ピン類・ホース・継手金具の緩みを点検してください。
- ・ボルト・ナット・ピン類の脱落がないか確認し、脱落している部品は補充してください。
- ・各部に給油・注油してください。
- ・コントローラは電子部品を使用していますので、水濡れ厳禁です。雨ざらしや洗浄機等の高圧での水洗いはしないでください。濡れた場合は良く乾燥させて、端子等に腐食が無いか確認し、腐食がある場合は、除去や部品交換を行ってください。

### 2. 作業シーズン終了後

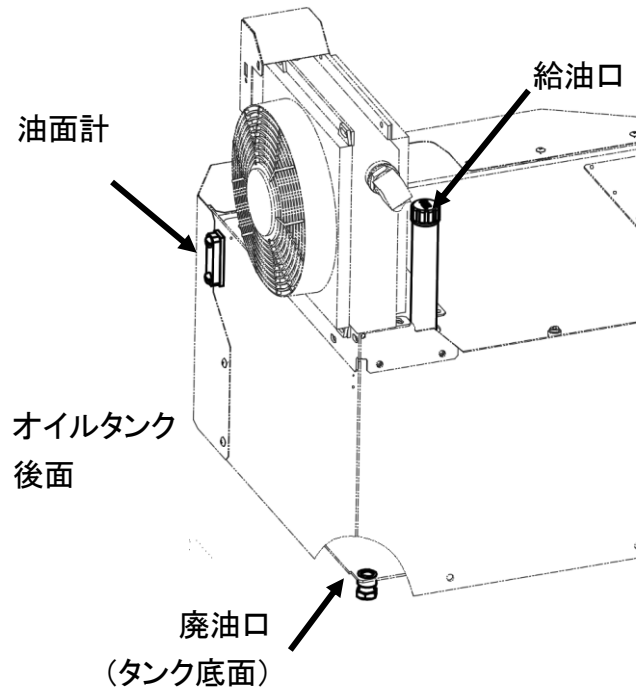
- ・水洗い・乾燥・補修塗装・給油・塗油等を行ってください。
- ・破損部品・脱落部品がある場合は、早めに部品交換・修理をおこなってください。
- ・格納は、湿気・埃がなく、平坦で安全な場所に安定した状態で保管してください。

### 3. オイル交換およびグリース注油について

#### 3-1. 作動油量の確認

使用前に必ず油量の点検を行ってください。

油量の確認の際は、トラクタに装着し、オイルタンクが前後・左右水平の位置に姿勢を調整してください。タンク後面にある油面計を確認し、ゲージの中心に油面があれば適量です。



#### 3-2. 作動油交換

ゴミなどの浮遊、沈殿が顕著な場合や、作動油が褐色に変色している場合は、交換してください。タンク底部に廃油口が有りますので、缶・容器で受け、排出してください。廃油後、タンク上部の給油口から給油してください。

- 給油、廃油箇所 … オイルタンク
- 油種 … ISO VG32相当
- 油量 … 100ℓ

#### 4. グリース注油箇所

##### 重要

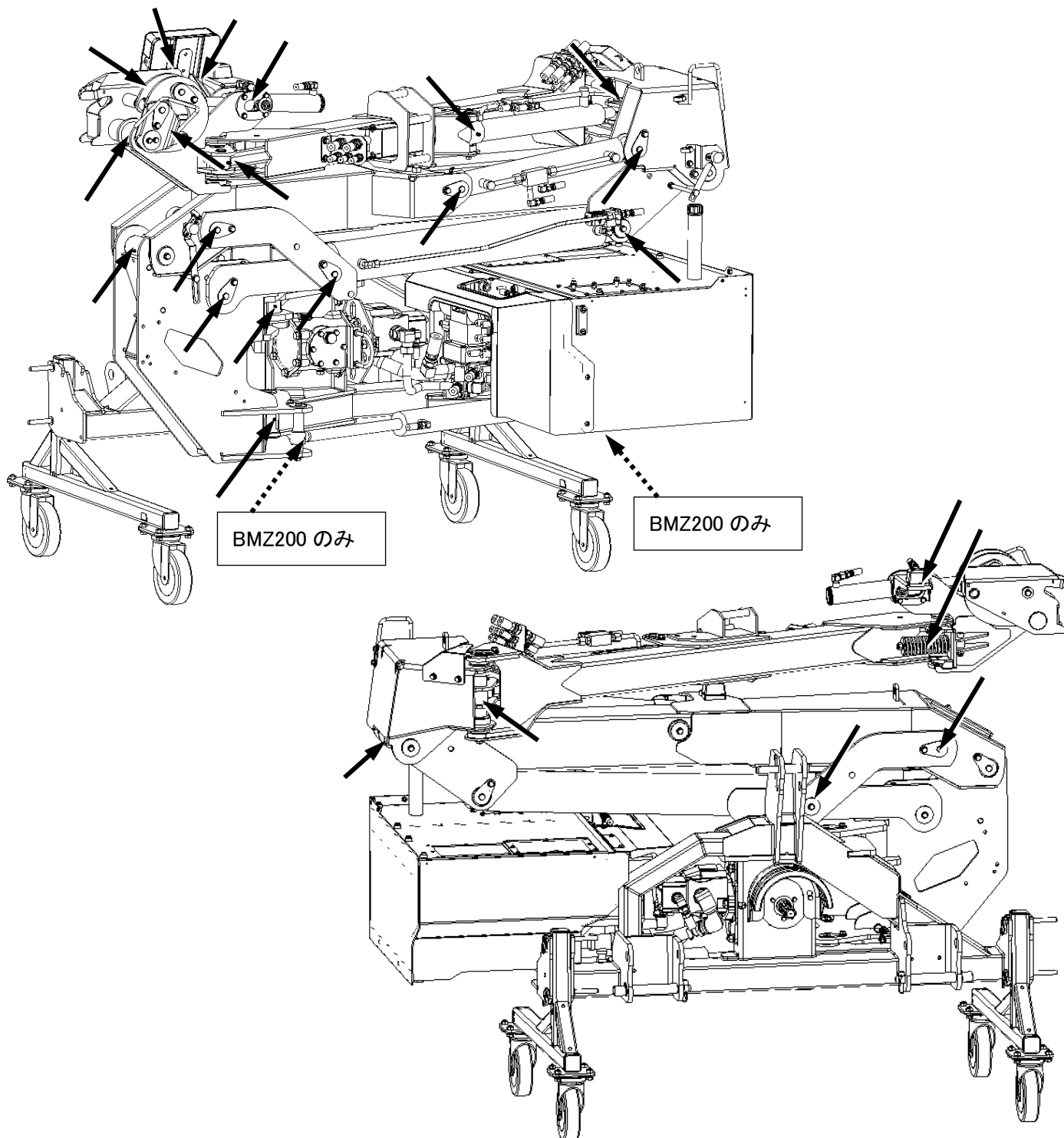
- 作業機の性能を発揮するため、すべての注油は作業ごと(8時間毎)に注油してください。
- 指定のグリースを使用してください。十分な性能が発揮できない、もしくは故障の原因になります。

マストフレーム支点、各部可動アーム支点部、ベアリング部、アーム1・2と各シリンダー支点部、ゲージローラ部

ユニバーサルジョイントに注油してください。

使用グリース … リチウムグリース 工場出荷時: JXエネルギー エピノックグリースAP(N)

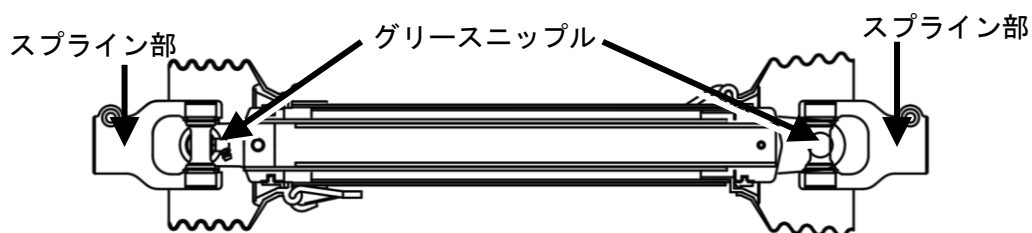
##### 本体のグリース注油箇所



## ⚠ 警告

- オイル交換時やグリース注油時は、必ずPTOを切って、トラクタのエンジンを止めてください。  
【守らないと】
  - ・回転体に巻き込まれ、傷害事故を引き起こします。
  - ・機械にはさまれ、傷害事故を引き起こします。

### ユニバーサルジョイントの注油箇所

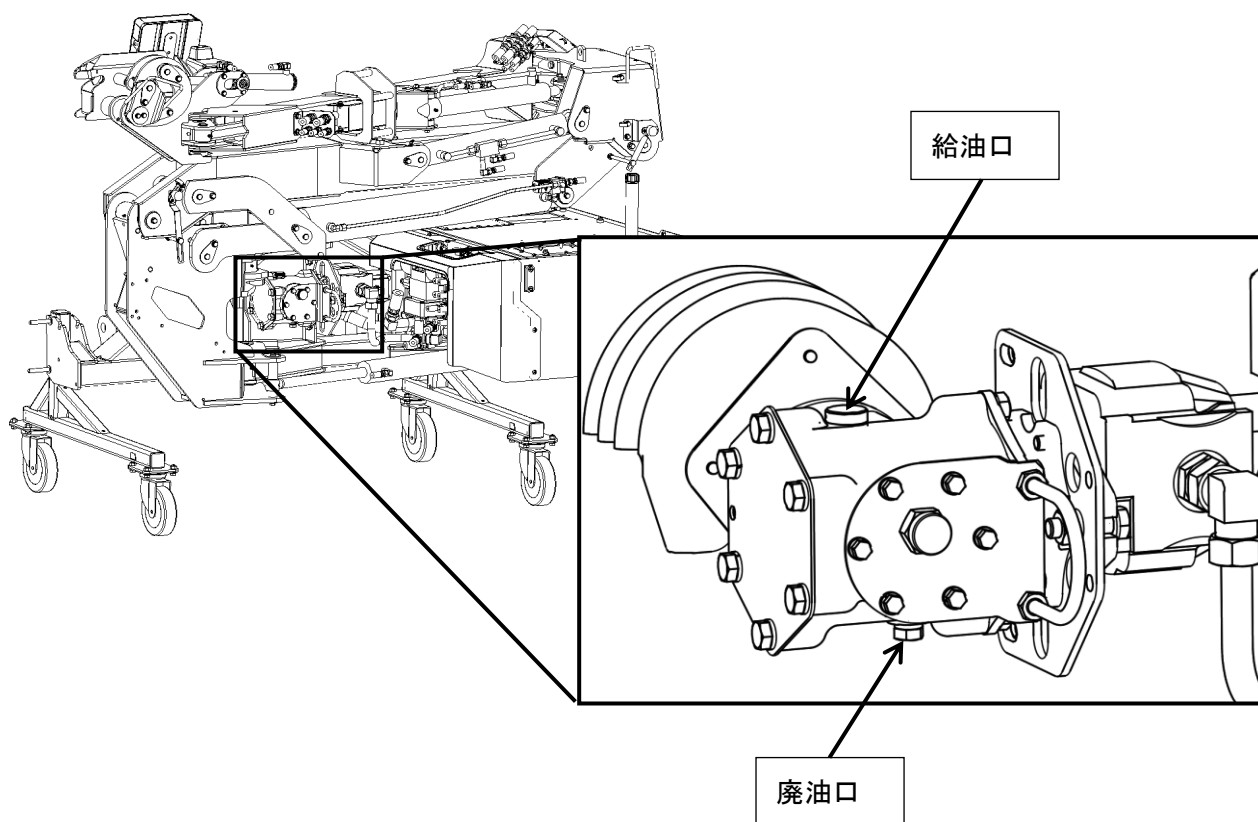


#### 4. ギヤオイルの給油箇所<BMZ200のみ>

- ・使用油種 … 自動車用ギヤオイル(#80~90)
- ・使用油量 … 1.0L

ミッションケースに上面に給油口、下面に廃油口があります。

初回のオイル交換は新品から使用後20時間、2回目以降は50時間を目安に交換してください。



#### ・廃油処理について

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などには、絶対に捨てないでください。  
環境汚染につながります。

廃油の処分方法については、購入元の販売店や自治体にご相談の上、適応される法規に従ってください。

## トラブルの原因と処置方法

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
ジョイント	・異音発生	ヨーク部のグリース不足	グリース給油	○	○
コントロー ルバルブ	・オイル漏れ	シールの損傷	Oリング シール交換	○	○
		廃油口のシールの劣化	シールテープの交換	○	○
接続金具 油圧ホース	・異常発熱	オイル量の不足	オイルの補給	○	○
		オイルフィルターが目詰まり	オイルフィルターの交換	×	○
	・オイル漏れ	シールの損傷	Oリング シール交換	○	○
		廃油口のシールの劣化	シールテープの交換	○	○
無線リモコン及び電装関係	・電源が入らない	配線抜け	再度コネクタを接続しなおす	○	○
		ヒューズ切れ	ヒューズの交換	○	○
		バッテリーの電圧不足	バッテリーの充電または交換	○	○
		リモコンの異常、受信機の異常	リモコンの交換 (受信機とセットで)	×	○
	・電源が入るが 動かない	通信障害	スイッチ操作を一旦やめて、再操作する。	○	○
		・シリンダーが 動かない	トラクタPTOが回転していない	PTO回転させる	○
	・アームが途中で 動かない	ポテンショメータの破損	ポテンショメータの交換 (再調整)	×	○
		配線抜けまたは断線	・再度コネクタを接続しなおす または、断線部を接続する。 ・ハーネス交換	○	○
		接触防止機能にて停止している 前進位置センサの故障	オフセット量を出して、再操作 センサの交換	○	○
	・アームが途中で 動かない	接触防止機能にて停止している 前進位置センサの故障	オフセット量を出して、再操作 センサの調整または交換	×	○
	・フローティングス イッチを押すと勝 手にアームが持 上る	ブレーキバック 負荷センサ故障ま たは調整不良	フックが掛かっているときに、 負荷センサスイッチが押されている か確認する 故障の場合は交換	×	○
	・自動展開・格納 が途中で止まる	PTOの回転数不足 油温が低い	PTO回転数を上げる (最大1000rpm) PTOを回した上で暖機運転		

# 主要諸元

型式	格納時寸法 (mm)			重量 (kg)	リーチ (m)	作業速 度 (km/h)	最高 使用 圧力 (MPa)	作動油	PTO 回転数 (rpm)	適応 馬力 KW (PS)	装着方法	
	全長	全巾	全高									
BMZ100DX	1050	1810	1120	500	水平 2.8	0.5~4	20.6	VG32 相当 100L	750~ 1000rpm	25.7~55.2 (35~75)  適応 トラクタ重量 1800kg~	JIS 標準 3P 0・1 形	直装
BMZ100DX-0 S				495								0セット
BMZ100DX-3 S				525								3セット
BMZ100DX-4 S				530								4セット
BMZ100DX-0 L				495							0セット	
BMZ100DX-3 L				535							3セット	
BMZ100DX-4 L				540							4セット	
BMZ200DX	1200	2250	1420	730	水平 3.6  下 45° 2.0					55.2~99.3 (75~135)  適応 トラクタ重量 2500kg~	JIS 標準 3P 2 形	直装
BMZ200DX-0 L				725								0セット
BMZ200DX-3 L				770								3セット
BMZ200DX-4 L				775								4セット

# トラクタマッチング表 <BMZ100DX>

※取り付け穴の数値は、すべて水平方向は前から、上下方向は上からで表しています。

トラクタ型式	装着方式 (装着フレーム)	トラクタ側				作業機側		使用 ポイント	必要 ウェイト(kg)	備考
		トップリンク		リフトロッド	ロウリンク	トップリンク	ロウリンク			
		長さ(mm)	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置			
NT/NTA435 NT/NTA465 NT/NTA505 NT/NTA555 NT/NTA605	標3P (直装)	668	1	3	2	1	1	AS050-N500	125	
NT/NTA505C NT/NTA555C NT/NTA605C	標3P (直装)	665	1	2	1	1	1	AS050-N500	125	
TJV655 TJV755	標3P (直装)	637	1	2	1	1	1	AS050-N500	45	
	標4S (ササキS)	632	1	2	1	1	1	AS205-CV600	90	
	標4L (ササキL)	544	1	2	1	3	2	AS300-CV550	90	
TJV655C TJV755C	標3P (直装)	668	1	3	1	1	1	AS050-N500	90	
	標4S (ササキS)	632	1	3	1	1	1	AS205-CV600	180	
	標4L (ササキL)	556	1	3	1	3	2	AS300-CV550	180	
SL350	標3P (直装)	770	1	1	1	1	1	AS050-N500	250	
SL350PC	標3P (直装)	760	1	1	1	1	1	AS050-N500	250	
SL380 SL410 SL450	標3P (直装)	786	1	1	1	1	1	AS050-N500	150	
	標4S (ササキS)	766	2	1	1	1	1	AS205-CV600	250	
	標4L (ササキL)	725	1	2	1	3	2	AS300-CV550	250	
SL380PC SL410PC SL450PC	標3P (直装)	749	2	1	1	1	1	AS050-N500	150	
	標4S (ササキS)	769	2	1	1	1	1	AS205-CV600	200	
	標4L (ササキL)	727	1	2	1	3	2	AS300-CV550	200	
SL480 SL540 SL600	標3P (直装)	763	2	1	1	1	1	AS050-N500	150	
	標4S (ササキS)	786	2	1	1	1	1	AS205-CV600	200	
	標4L (ササキL)	748	1	2	1	3	2	AS300-CV550	200	
SL480PC SL540PC SL600PC	標3P (直装)	766	2	1	1	1	1	AS050-N500	200	
	標4S (ササキS)	780	2	1	1	1	1	AS205-CV600	250	
	標4L (ササキL)	737	1	2	1	3	2	AS300-CV550	200	
MR600 MR650 MR700	標3P (直装)	615	1	2	1	1	1	AS050-N500	0	
	標4S (ササキS)	634	1	1	1	1	1	AS205-CV600	100	
	標4L (ササキL)	555	1	3	1	3	2	AS300-CV550	100	
MR650PC MR700PC	標3P (直装)	623	1	2	1	1	1	AS050-N500	150	
	標4S (ササキS)	663	1	3	1	1	1	AS205-CV600	150	
	標4L (ササキL)	527	1	4	1	3	2	AS300-CV550	200	

## トラクタマッチング表 <BMZ100DX>

※取り付け穴の数値は、すべて水平方向は前から、上下方向は上からで表しています。

トラクタ型式	装着方式	トラクタ側				作業機側		使用 ジョイント	必要 ウェイト(kg)
		トップリンク		リフトロッド <sup>※</sup>	ロウリンク	トップリンク	ロウリンク		
		長さ(mm)	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置		
GM452 GM502	標準3P	624	1	1	1	1	1	AS050-N500	150
GA452	標3P (直装)	619	1	1	1	1	1	AS050-N500	120
	標4S (ササキS)	674	1	1	1	1	1	AS205-CV600	180
GAK452 GAK502 GAK552	標3P (直装)	676	1	1	1	1	1	AS050-N500	120
	標4S (ササキS)	688	1	1	1	1	1	AS300-CV550	180
YT338 YT345 YT352 YT357	標3P (直装)	682	2	2	1	1	1	AS050-N500	150
	標4S (ササキS)	691	1	2	1	1	2	AS205-CV600	180
YT338D YT345D YT352D	標3P (直装)	629	2	2	1	1	1	AS050-N500	180
YT357D	標3P (直装)	629	2	2	1	1	1	AS050-N500	180
	標4S (ササキS)	636	1	2	1	1	2	AS205-CV600	180
YT460 YT465 YT472	標3P (直装)	659	1	1	1	1	1	AS050-N500	60
	標4S (ササキS)	662	1	1	1	1	1	AS205-CV600	120
	標4L (ササキL)	581	1	2	1	3	2	AS300-CV550	120
YT465D YT472D	標3P (直装)	662	1	1	1	1	1	AS050-N500	120
	標4S (ササキS)	663	1	1	1	1	1	AS205-CV600	150
	標4L (ササキL)	547	1	2	1	3	2	AS300-CV550	150



# トラクタマッチング表 <BMZ200DX>

※取り付け穴の数値は、すべて水平方向は前から、上下方向は上からで表しています。

トラクタ型式	装着方式 (装着フレーム)	トラクタ側				作業機側		使用 ジョイント	必要 ウェイト(kg)
		トップリンク		リフトロッド <sup>2</sup> 穴位置	ロワリンク 穴位置	トップリンク 穴位置	ロワリンク 穴位置		
		長さ(mm)	穴位置						
GCR1380	標3P (直装)	739	1	1	1	1	2	AS105-N450	0
	標4L (ササキL)	695	1	1	1	3	2	AS300-CV550	0
MR800 MR900 MR1000 MR1050	標3P (直装)	657	1	3	1	1	2	AS105-N450	180
	標4L (ササキL)	612	1	3	1	3	2	AS300-CV550	270
MR800PC MR900PC MR1000PC MR1050PC	標3P (直装)	644	1	3	1	1	2	AS105-N450	360
	標4L (ササキL)	595	1	3	1	3	2	AS300-CV550	360
M860W-SE	標3P (直装)	729	1	3	1	1	2	AS105-N450	270
	標4L (ササキL)	683	1	3	1	3	2	AS300-CV550	360
M1010W-SE	標3P (直装)	729	1	3	1	1	2	AS105-N450	270
	標4L (ササキL)	683	1	3	1	3	2	AS300-CV550	360
M100GE M110GE	標3P (直装)	739	1	1	1	1	2	AS105-N450	0
	標4L (ササキL)	692	1	1	1	3	2	AS300-CV550	90
M110GE-PC	標3P (直装)	745	1	2	2	1	2	AS105-N450	270
	標4L (ササキL)	691	1	2	2	3	2	AS300-CV550	360
M115GE M125GE M135GE	標3P (直装)	739	1	1	1	1	2	AS105-N450	0
	標4L (ササキL)	692	1	1	1	3	2	AS300-CV550	0
M125GE-PC M135GE-PC	標3P (直装)	740	1	2	2	1	2	AS105-N450	270
	標4L (ササキL)	684	1	2	2	3	2	AS300-CV550	360
TJW1153 TJW1233	標3P (直装)	695	1	3	1	1	2	AS105-N450	315
	標4L (ササキL)	644	1	3	1	3	2	AS300-CV550	450
TJV755	標3P (直装)	567	1	3	1	1	2	AS105-N450	225
	標4L (ササキL)	568	1	3	1	3	2	AS300-CV550	315
TJV755C	標3P (直装)	607	1	3	1	1	2	AS105-N450	315
	標4L (ササキL)	556	1	3	1	3	2	AS300-CV550	360
TJV885 TJV985	標3P (直装)	774	1	3	1	1	2	AS105-N450	90
	標4L (ササキL)	692	1	3	1	3	2	AS300-CV550	180

## トラクタマッチング表 <BMZ200DX>

※取り付け穴の数値は、すべて水平方向は前から、上下方向は上からで表しています。

TJV885C TJV985C	標3P (直装)	741	1	3	1	1	2	AS105-N450	180
	標4L (ササキL)	687	1	3	1	3	2	AS300-CV550	270
TJX743	標3P (直装)	657	1	1	1	1	2	AS105-N450	315
	標4L (ササキL)	610	1	1	1	3	2	AS300-CV550	450
TJX873 TJX973	標3P (直装)	672	1	2	1	1	2	AS105-N450	315
	標4L (ササキL)	603	1	2	1	3	2	AS300-CV550	405
YT460A YT465A	標3P (直装)	611	1	2	1	1	2	AS105-N450	300
YT465AD YT472AD	標3P (直装)	666	1	2	1	1	2	AS105-N450	300
YT472A,C	標3P (直装)	624	1	2	1	1	2	AS105-N450	0
	標4L (ササキL)	540	1	2	1	3	2	AS300-CV550	0
YT488A YT498A YT4104A	標3P (直装)	671	1	2	1	1	2	AS105-N450	250
	標4L (ササキL)	623	1	2	1	3	2	AS300-CV550	250
YT488AD YT498AD YT4104AD	標3P (直装)	672	1	2	1	1	2	AS105-N450	250
	標4L (ササキL)	622	1	2	1	3	2	AS300-CV550	300
YT5113A	標3P (直装)	738	3	2	1	1	2	AS105-N450	150
	標4L (ササキL)	700	1	1	1	3	2	AS300-CV550	200
YT5113AD	標3P (直装)	732	3	2	1	1	2	AS105-N450	200
	標4L (ササキL)	694	1	2	1	3	2	AS300-CV550	250
YT5113A,C	標3P (直装)	684	1	1	1	1	2	AS105-N450	0
	標4L (ササキL)	636	1	1	1	3	2	AS300-CV550	0

**MEMO**

A series of horizontal dashed lines for writing.





MEMO

A series of 24 horizontal dashed lines spaced evenly down the page, providing a template for handwritten notes.

購入日 年 月 日

型式

シリアル番号



株式会社  
**ササキコーポレーション**

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

本社・工場 /〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111 FAX 0176-22-8607
製品窓口 /〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170 FAX 0176-25-3127
部品窓口 /〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170 FAX 0176-25-3171
北東北営業所 /〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354 FAX 0176-23-9655
仙台営業所 /〒989-1631 宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780 FAX 0224-58-7782
関東営業所 /〒329-0201 栃木県小山市栗宮1241-9	TEL 0285-45-8911 FAX 0285-45-8910
新潟営業所 /〒954-0051 新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810 FAX 0258-62-3160
岡山営業所 /〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508 FAX 086-274-9510

ZT00000002

(2202-K3B7521000)